



発行日 2006年12月25日 発行人 福島伸悦
 編集責任者 浅井宣亮 編集担当 太田賢孝 編集委員 亀野 館盛 菅原 内山
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内
 Tel. 045-843-8852 Fax. 045-843-8864 URL: <http://www.soto-zen.net/>
 郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

Vol.33



ドイツ普門寺国際友の会・看雪会ツアー参加者とともに

CONTENTS

●巻頭	国際布教への願い	曹洞宗教化部長 瀧澤 和夫	1
●特集1	両大本山ワークショップ報告1ー大本山永平寺講演会 聴講レポートー 僧侶として、宗教家として、人として アンケート結果全文掲載	SZ I 会員 内山 温子	2 14
●特集2	ドイツ普門寺10周年 ドイツ大悲山普門寺創立10周年記念行事 テントの中の盛儀ードイツ普門寺での晋山式ー 志を新たにー普門寺における語式の無事圓成にあたってー	SZ I 事務局員・ドイツ普門寺国際友の会事務局 館盛 寛行 愛知県正法寺徒弟・ドイツ普門寺事務局員 若山 悠光 ドイツ大悲山普門寺 堂頭 中川 正壽	4 6 7
●連載	「東漸?ヨーロッパの禪」 ヨーロッパ 欧州仏教大学の新学期	副学長 エリック・ロムリュエール	8
●国内レポート	第8回「ゆめ観音」アジアフェスティバル in大船 報告 平成18年度 聖護寺国際安居レポート	SZ I 事務局員 亀野 哲也 聖護寺国際安居 講師 寿松木宏毅	10 12
●国際布教支援金	交付決定のお知らせ		13
●SZ I 通信	使われていない法衣や法具をご寄贈ください。 寄付者・会費納入者名簿・動静報告・SZ I ホームページ運営中・お知らせ		9 20

巻 頭

国際布教への願い

曹洞宗教化部長 瀧澤 和夫



これまでSOTO禅インターナショナルにおいて、副会長、相談役と務めさせていただいており、また国際布教審議会専門部会委員として、微力ながら国際布教の一端を担って参りましたが、この

度、教化部長に就任することとなりました。与えられた任期中は皆様のご指導を賜りながら、海外における布教教化に対しての重責を果たすべく、精進努力いたす所存でございます。

国際布教は、すでに開教から100年が経過し、更なる進展を遂げている時であります。最近の動向では、より多くの人々の要望に対応するべく、「曹洞禅ネット」上に6ヶ国語にて情報を発信しております。一仏両祖の普遍のみ教えは静かに世界に向けて浸透し、平和を希求する人々の心の中に次第に定着しつつあります。現在、

南米別院50周年記念事業におきましては、全国御寺院様より協賛のご協力をいただき、ヨーロッパでは、総監部事務所が元来あったパリへと移転手続きが開始され、また来年6月には布教40周年記念行事も計画されております。私の切なる願いは、近い将来において関係各位のご理解をいただき、海外において宗門認可の修行道場設置が具体化されることであり、その時、国際布教の歴史は大きく転換していくと思われま。

全世界に宗門の教義を敷衍する目的のもと、各総監部、国際センターとの連携は勿論ですが、縦横無尽に行動できるSZIの組織的協力なくしては、次代に即応した役目を果たすことは叶いません。会員皆様には、今後も更なる宗門国際布教へのご協力をお願い申し上げ、SZIがグローバルな視点で活動する人材育成の世界の窓口として、更に発展されることを冀うものであります。

僧侶として、宗教家として、人として

S Z I 会員 内山温子

SOTO禅インターナショナル主催講演会

日 時 平成18年7月3日
 会 場 大本山永平寺
 演 題 「誰のために修行しているのか」
 講 師 広島大学大学院教授 町田宗鳳先生
 会報P14~19にはアンケートが掲載されております。
 併せてご覧下さい。

講演会聴講レポートに当り、まず最初に、講演の後に行われた質疑応答をご紹介します。

ここでご紹介する質疑の部分、一人の雲水さんによるものではなく、複数により町田先生と交わされたもの一部です。

講演の中で町田先生が繰り返し強調されたのは、「何はさておき今この永平寺での修行の時を無駄にしてはならない」、ということでした。

この講義そのものが、「誰のために修行するのか」についてのヒントでもあり、修行の時間を大事にすることが、出自の環境や宗派に違いはあるけれども、同じように僧堂での修行の経験に基づくものであり、なにより今現在、普段から忙しく駆け回る先生だからこそ説得力があったように私は思います。

質疑：僧堂を出たら修行とは何になるんですか。講師先生にとって、修行をしているのであれば、何が修行なのか。今眼の前にあるのなら、何がそれにあたるのか。頑張ってることは、それは先生にとって何ですか。

応答（町田先生）：私にとっては、大学の先生として学生により教育をもたらすというのが最初の行ですね。あるいは、執筆を通じて人に伝えるべきことを伝えていく。あるいは日々に出会う方と、真剣に向かい合う。「今」ということ、食事を頂く、歩く、その刻一刻が行ですね。ですからその原型を雲水のときにどこまでも徹底して透明に体験しておかないと、まこと、自然の展開が見えなくなる、そのよう



白熱の質疑応答

に考えております。

質疑：では永平寺で修行している時間、その一瞬一瞬と、また僧堂から出て人と交わって、一生懸命に人を救おうとする時間は、全く相違ないものなのでしょうか。

応答（町田先生）：ただね、人を救おうとか、いいことしようとか、そういう自意識がなくなるのが望ましいですね。それが自然体のできるのが理想です。自分が人のためにいいことしてるんだとか、そういう思いがあれば、それは一つの妄想ですから。結局四六時中、人のために働いていたとしても、それはある意味では己事究明ですから、自利・利他という方便上の言葉はありますけれども、実際は一つの命の輝きを出すため、そう簡単に人のため自分のためとわりきれないものがあると思います。命を共有するというね、そういう感覚。毎日毎日の樹木の色、空の様子、鳥の声、水の音、これまさに道元さんが盛んにそういうことをうたっておられますが、命の輝きを本当に腹の底から感じていくそういう原点なくして社会活動とか、慈善事業とかやってもですね、表面的なものに終わってしまうかもしれません。

質疑：いつ（修行の）終わりが、わかるんでしょう。

応答（町田先生）：自分でわかるとは思いますよ、柿が枝から落ちるように。落ちるわけですから、それは人によっては1年で落ちてしまう、ひょっとしたら10年しないと落ちない柿もあると思います。自分で納得する時期が見えてくると思います。それは心配することないです。

質疑：（修行は）自分のためでもあるし人のためでもある『同事』ということよろしいでしょうか。

応答（町田先生）：いいです。認識としては、本当はね、本当のこといえば私はここへ坐って、ほとんど坐らなくても、あの人、なんか違うなあ、あの人楽しそうに生きてるなあ、何か知らないけどありがたいなあ、そういうことをみなさんが感じてくださるようになりたいなあ。そういう人間になりましようや。存在そのもの、あるということ、何をやるというのではなしに、あるということの重みを伝えていける、そういう人間になりたいですよ。

そして、講演の最後の部分では、先生はこのように締めくくりました。

私が話したことに対して疑問を持たれた方、あるいは中には反論をしたいと思った方もありますが、今日の出会いは、偶然じゃないと思います。私という人間が、みなさんのようにこれから日本の仏教を背負っていかれる方にここで出会わせただいて、ここでお話をさせていただいたことには、それなりに理由があったと思います。どこかでですね、また仏縁があって永平寺を出られてからお会いする

ことがあるかもしれません。そのとき、町田先生はあのときああいうふうにおっしゃっていましたが、全然変わってませんねえとか(笑)、そういう親しい語らいがどこかでできたら、非常に幸せに思います。

町田先生は修行中に本も読む必要はない、僧堂を出たときのことなんて考えないで、ただ只管に坐禅する、ということをやっていたが、いかにこの修行の時間が大事なのかということについての例えとして、さまざまに言葉を置き換えておられるように思いました。

繰り返すことで、体や心に染み入り、今まさにこの出会いは一期一会であることや、そういったことを、もし既にいろんな人から聴いて知っていたとしても、違うタイミングで違う人の口から発されることによって、全然違った表情が現れ、改めて思い出したり、別の視点で見ることができたりする場合もあるということ、今回学んだ気がします。感受性の鋭さ、将来に対する漠然とした不安、そういったことへも細かく配慮しながら、町田先生はご自分の経験を思い出してお話くださったのだと思います。

この会報33号にはアンケートの回答が掲載されておりますが、そこにある彼らのメッセージは、純粹で、まっすぐで、そしてとっても繊細なものだと思います。誰一人「無回答」という人なく、自分の言葉で書き、責任感をもって修行されていることに、本当に頭の下がる思いがしました。たまたまこの人たちは、この時期に、お役目として雲水として修行道場におられるけれども・・・全員同じように剃髪をし、みな同じ衣をきて同じスリッパを履いているのに、規範規律があってこそ出てくる個性だとか、その自由な身心は決して教え込まれて画一化されるわけではないところに、この宗門の特徴があるのだということ、画像として鮮明に初めて見たような気がします。だから、配役が偶然与えられるという決まりも、そのお仕事は一人ひとりにとってとても大事な作務だと思いますし、その意味でも、まさに先生のおっしゃる僧堂を出てからの修行と優劣の差なんてないのだらうと思います。

「現象世界には嵐が吹きすさぶような激しさがあっても、決して心の静けさだけは乱されない、というような確信がないところに、宗教体験はありません。もちろん、その場合の宗教体験は、禅や念仏など仏教の伝統に則った体験だけを意味しません。すでに繰り返したように、人間の生きざまそのものが、宗教体験なのです。」

—『前衛仏教論 —くいのち>の宗教への復活』(町田 2004 p.217)

町田先生は講演の中でもご紹介下さった御著書の中で、このように述べておられます。現代社会は道場の中とは全く違うでしょうし、情報のなさ具合などは浦島太郎の話どころではないかもしれません。その点では、町田先生たちの若い時よりもはるかにタイムラグがあると思うのです。

しかし、少なくとも我々の世代が認識している現代の宗教(仏教)事情の中にあっては、あんな厳しい修行生活は願ってもしたくないという人がいる一方で、そんな生活がし



杓底一残水 汲流千億人

てみたいと憧れられることさえあるのです。僧堂の中に彼らがいようとまいと、こうしたことは常に山の外にも内にも我々には見えないかもしれません。それは宗門の修行が、先生もおっしゃった「陰徳の行」の実践の場の一つとして大事にされてきたからではないでしょうか。

ただ、こんなふうに生きてみたいとか、こんな人になりたいと思う夢や希望は誰にとっても大事ですし、お山を下りたあとで本格的にお寺の和尚さんになったり、はたまた別の職業を選んだり、それは全く未知なことですが、きっと雲水さんたちは、それぞれの道のなかにこそ、私たちについていくものために道標を置いていかれることと信じております。それは、町田先生のおっしゃった「坐禅は、自ら劇場が変わります。自分で紙芝居の場面をかえようとしなくても、ちゃんと仏さんが変えてくれます。皆さん一人ひとりに、一番ふさわしい劇場が与えられる。」ということでもあると思います。

廊下を曲がり大講堂の向こうに整然と坐っておられる大勢の雲水さんの背中をみたその一瞬に、私自身はなぜか父の背中を無意識に重ねていたことも事実でした。どんなお坊さんも、突然世の中に現れるわけではないのです。今私がどこにいて、どのような立場にあらうとも、一寺族として法灯をともに守っていくということは義務などではなくて本当はとても幸せなことだったのだと、今までそれをあまり感じられなかったことを、講義を聴きながら一人恥ずかしく思いました。

同時に、両祖禅師さまが確かにいらしたこと、どちらかの



アンケートにもびっしり!

の禅師さまが欠けていても現在の宗門はなかったであろうこと、永平寺の正門にも刻まれた『杓底一残水 汲流千億人』の言葉の深さに感じ入った次第です。まずは人としてどのように生きるか、という大事な問題について思いを馳せる機会を与えてくださったことに、改めてこの場をお借りして心より感謝いたします。ありがとうございました。

ドイツ大悲山普門寺創立10周年記念行事

S Z I 事務局員・ドイツ普門寺国際友の会事務局 館盛寛行

2006年は曹洞宗国際布教師である中川正壽師がドイツで禪の布教を始めて27年、アイゼンブッフの地に大悲山普門寺を開いてから10年目の年にあたります。普門寺は現在、ドイツ政府公認の非営利組織「禅センター・アイゼンブッフ」となっており、摂心、レトリートコース、インド・中国・日本仏教のガイダンス・正法眼蔵のコースなどが毎月実施されています。また、ガン患者やその家族のためのコースやパートナーのための心の対話訓練のコースなどもあり、身心のバランスの取れた生活の習得を指導しています。

普門寺には中川師の他、6名のメンバーが常住し、また、随時、参禅者や作務の手伝いの方々を訪れます。毎週水曜日に行われる坐禅会にも近隣から10名以上の参加者が訪れ、徐々に活動も充実してきています。

しかし、ここまで施設やセミナーの内容を整えるのは簡単なことではありません。ドイツはカトリック信仰の強い国です。特に普門寺の近隣には黒マリア像で有名な巡礼地アルトエッティングや現ローマ法王ベネディクト16世（ヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿）の生誕地であるマクトル市があります。10周年記念行事が行われた9月8～10日は、偶然にもローマ法王がドイツ・ミュンヘンに訪れる日程と重なり、950年ぶりのドイツ人ローマ法王を迎えミサを行うために町中がお祭り騒ぎになっていました。

このような環境の中で、曹洞宗の禪を布教し、地元の方々の理解と協力を得るのは簡単なことではなかったでしょう。普門寺創立10周年記念行事は、春（5月）と秋（9月）の2回に分けて行われ、中川師のこれまでの苦勞を知る方々が日本・ヨーロッパ・アメリカから集まりました。9月の行事には、今村源宗ヨーロッパ国際布教総監をはじめ、日本からも次の団体が普門寺を訪れ、総勢150名（内僧侶60名）が記念行事に参加しました。

●ご開山様関係

代表：南澤道人老師（北海道中央寺住職）
金原東英老師（永平寺東京別院後堂）

●大阪府妙寿寺関係

代表：久田宏道師（瑠璃光寺住職）
栖川節子様（妙寿寺寺族）

●福井県妙徳寺関係

代表：古坂龍宏師（妙徳寺住職）

●看雪会（大本山永平寺同安居会）関係

代表：八島國雄師（秋田県天龍寺住職）

●観音懺法関係

代表：来馬正行師（東京都観音院住職）
葛西好雄師（東京都永見寺住職）

●横浜善光寺関係

代表：黒田博志師（神奈川県善光寺住職）
山口晴通老師（神奈川県成願寺住職）

●ドイツ普門寺国際友の会

代表：奈良康明老師（東京都法清寺東堂）
小坂機融老師（東京都泉岳寺住職）

●SOTO禅インターナショナル関係

代表：大谷有為（東京都長泰寺副住職）
館盛寛行（神奈川県梅宗寺副住職）

記念行事は15のプログラムを9月8日から10日の3日間にかけて行いました。

【9月8日】

- ①首座入寺式
- ②本則・配役行茶（本則提唱：西堂・小坂機融老師）

【9月9日】

- ③慶讃報恩法要 観音懺法（導師：来馬正行師）
- ④晋山式
- ⑤晋山開堂
- ⑥首座法戦式（首座：ハーン玄法師）
- ⑦記念講演（講師：小坂機融老師）
- ⑧清興 クラシック音楽
（奏者：イリス・リヒティンガー氏）
- ⑨祝宴

【9月10日】

- ⑩僧堂開単式（導師：南澤道人老師）
- ⑪開山御真像開眼法要（導師：南澤道人老師）
- ⑫垂示（開山御専使：南澤道人老師）
- ⑬観音・地藏菩薩像開眼法要（導師：山口晴通老師）
- ⑭記念講演（講師：奈良康明老師）
- ⑮清興 和太鼓・尺八
（奏者：池田永晋師・下川禅勝師）

これらの行事を日本語、ドイツ語、英語という言葉の壁を乗り越え、仏具の調達もままならないドイツの地で、現地のボランティアに支えられながら準備をし、成功させることができたことに驚きを隠せません。当然、中川師一人だけの力では実現ができません。ドイツでの布教にける中川師の強い志、そしてその志を支える人と人との縁の力があってはじめて可能となるのです。縁の始まりは出会いです。そして共に過ごし、語り合うことによって、その縁が深まります。一人でも多くの方々がドイツ普門寺を訪れ、縁のもつ温かさと強さにふれていただければと願っています。



晋山式：普門寺山門にて新命方丈を迎える



地元のボランティアによる手作りの須弥壇



晋山開堂：
テント内に作られた手作りの須弥壇の上で



首座法戦式：
ドイツ人であるハーン玄法師が日本語で法戦に挑む



御開山宮崎奕保禅師の像が
南澤道人老師より寄付される



開山御真像開眼法要：導師は南澤道人老師



横浜善光寺前任職黒田武志老師の袈裟をまとい、
菩薩像開眼法要に向かう山口晴通老師



ドイツ普門寺国際友の会ツアーより
大傘が寄付される

テントの中の盛儀 —ドイツ普門寺での晋山式—

愛知県正法寺徒弟・ドイツ普門寺事務局員 若山悠光

「晋山式をするのでお手伝い願いたい」と中川老師からお声をかけて頂き、今年4月、皆様より一足先に普門寺へ向いました。5月に創立10周年の記念式典を行なった直後から晋山式の準備が本格的に始まりました。こちらではほとんどの方が仏教の法要を見たこともないため手探り状態でした。役割分担を決め、独・日・英語での会議を重ねました。特に言葉の問題は大きな壁でした。独語の通訳者にとっても仏教の用語は初めてです。法要解説の全文を原稿にし、予めそれを独訳し専門用語は一つ一つ説明をして独語の言葉を作っていくという作業から始めました。また欧州各国からの方々には英語のしおりを作り、それを見て頂くことにしました。日本との打ち合わせには7時間の時差があり、緊急に連絡をしたくても日本は真夜中ということも少なくありませんでした。暁天坐禅の前に先ず事務所に行き日本に電話をしたりしました。日本の方々にとっては観光も重要です。日程の異なる4種類のツアーの観光と法要日程との調整は容易ではありませんでした。

また寺の設備や法具なども十分ではありません。第一に法堂が狭く予定の150人を収容できないので、庭にテントを立て木の床を張って法堂を作りました。中庭に日本式の石庭を作ったり、須弥壇・賽銭箱・見台・経机・荘厳等、日本のカタログを参考にすべてサンガの手作りでそろえました。作業場には連日夜遅くまで灯りが点っていました。西堂老師から「ヨーロッパで初めての本格的晋山式を是非成功させたい」とのお励ましを頂いて皆胸が熱くなり、力を合わせて頑張りました。

9月になりご参集いただいた御寺院様が何名か駆け付けて下さり準備も最終段階に入りました。多くの書き物や法具の点検、会場作りなど、ここでも日本の常識は通じませ

ん。汗だくになってテントの床にカーペットを張って下さっている方々に思わず手を合わせました。

リハーサルなしの「ぶっつけ本番」の式でしたが、皆様がそれぞれの役割を見事に果たされ遅延もなく円成させて頂き感謝に堪えません。夜の祝宴の席は日欧の御寺院様方の交流の場ともなりました。一方いくつかのハプニングもありました。一年前から予約していたホテルが式の数日前になって急にキャンセルされていることがわかり予約を戻すのに大慌てしたり、大阪から出発するツアーの飛行機が大幅に遅れ予定していた御詠歌隊の皆様が式の開始に間に合わなかったり、また僧侶の控え室とサンガの寝室を兼用にしていたのですが、ツアーのバスが朝予定より早く到着し、慌ててサンガの人を起こして部屋を空けてもらうなどの騒ぎもありました。しかし、ドイツの人々からはこんなに多くの僧侶を見たのは初めて、セレモニーに感動した等の声が上がっていました。市長や州議会議員、カトリック神父からも祝辞が届き、普門寺が地元で認められている事を感じました。またミュンヘンの日本総領事も来られ、式後「今度は是非坐禅会に参加したい」との連絡を頂きました。

式の準備を通してサンガの人とも一層親しくなりました。台所・会場係・お客様の送迎など裏方で式を支えて下さった皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。

テントは取り払われ羊たちが一日中草を食む静かな普門寺に戻った今、その跡に佇みあの2日間の盛儀を思い起こしています。すべては中川老師の渡独27年間の布教活動の総決算でした。カトリック信仰の強いこの地で、地元の文化と和合しながら曹洞禅の敷衍と人々の幸せのために献身的に活動しておられる老師の誓願が、益々大きな実を結ぶことを願って止みません。



テントの中で手作りした法堂



看雪会・八島國雄師(左)と若山師(右)

特集2 / ドイツ普門寺10周年

志を新たに —普門寺における諸式の無事圓成にあたって—

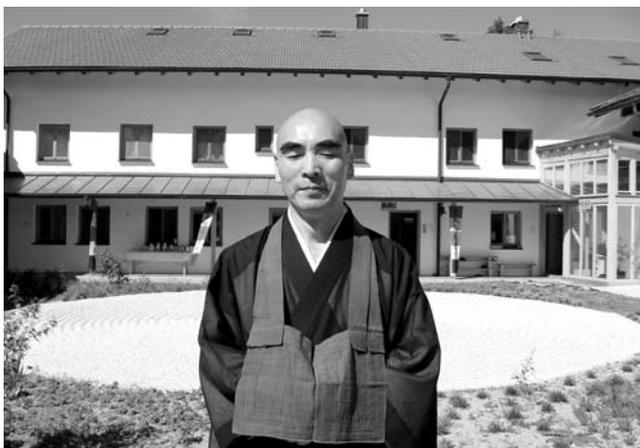
ドイツ大悲山普門寺 堂頭 中川正壽

この度ははるばる故国日本はもとより、ヨーロッパさらにアメリカと大勢の方々のご負担随喜を得て晋山式、僧堂開單式を無事円成させていただけたことは、衷心感謝申し上げる次第でございます。何から何までご準備いただき、万事滞りなく進展いたしました式ばかりではなく、事務、台所、接待とあらゆる分野でドイツ人日本人の方々の心からなるご協力をいただきました。慶讃法要に観音懺法をご修行いただきましたこともドイツ人にとっては未曾有のことであり有り難いことでした。南澤道人老師より猊下宮崎禪師のご了解のもと御開山宮崎禪師の御真像のご寄付があり開眼法要をお勤めいただきました。横浜善光寺の故黒田武志老師よりご寄贈の観音様お地藏様の開眼法要を山口晴通老師が導師をお勤めくださいました。西堂をお願い致しました小坂機融老師からはご講演をいただき、また諸式が終わって後、奈良康明先生からは一時間半にわたる講演をいただきました。

祝辞の中でも、ヨーロッパ国際布教総監である今村源宗老師のお言葉からは教示と励ましをいただき、また永平寺同安居看雪会会長八島國雄老師は私の昔の手紙を引用されて、私自身も渡独27年の苦節の長さを改めて感じた次第です。

これほどまでにご支援いただき、ここまでお導きいただいた今日、普門寺創立10周年にあたり、報恩行誓願行の原点に立ち返り、志を新たに僧堂の行持を根幹として、人の為世の為に役立つセンターに発展する様に一層努力精進致したいと存じます。

昔丁度渡独後10年目にして、ある撰心の折り次の短歌を得ました。



中川正壽師



坐禅堂が完成し開單される

もろびとの 恩を受けてぞ この日あり
報わさめや 命のかぎり

いままた同じ思いであります。当時から僧堂の建立を心に掛けておりましたが、その折常に道元禪師のお示しが指針であり、特に『正法眼蔵』「行持」巻を拝読しておりました。

おほよそ初祖二祖かつて精藍を草創せず、雑草の繁務なし。および三祖四祖もまたかくのごとし。五祖六祖の寺院を自草せず、青原南嶽もまたかくのごとし。

また

梵刹の現成を願ぜんにも、人情をめぐらすことなかれ。仏法の行持を堅固にすべきなり。修練ありて堂閣なきは、古仏の道場なり。露地樹下の風、とほきこゆ。この处在ながく結界となる。まさに一人の行持あれば、諸仏の道場につたはるなり。末世の愚人、いたづらに堂閣の結構につかることなかれ。仏祖いまだ堂閣をねがはず。自己の眼目いまだあきらめず、いたづらに殿堂精藍を結構する、またく諸仏に仏宇を供養せんとはならず、おのれが名利の窟託とせんがためなり。

とお示しであります。

幸いに佛天の御加護をもって、つい数年前までは夢のまた夢でしかなかった普門寺における僧堂が開單される運びになりました。永平広録における大叢林小叢林のお示しのごとく、規模の大小にかかわらない、真の行持報恩の日常底に精進致したく、決意を新たにす次第であります。

諸仏諸祖の行持によりてわれらが行持見成し、われらが大道通達するなり。われらが行持によりて、諸仏の行持見成し、諸仏の大道通達するなり。われらが行持によりて、この道環の功德あり。

連載 「東漸？西漸？ヨーロッパの禅」

ヨーロッパ 欧州仏教大学の新学期

副学長 エリック・ロンムリュエール

2006年10月21日。新学期はどこでも一種の緊張感が漂うものですが、パリの欧州仏教大学もこの日、2006年～2007年度の初日の講義を迎えました。その名が示すように、欧州仏教大学はパリの若い学生たちにとって普通の新学期とは少々趣を異にしています。ここは、仏教に関する講義や教えが受けられる新しい形の研究所なのです。

同大学のドミニク・トロティニオン学長はこう説明しています。

欧州仏教大学は、批判的な視点で、教義にとらわれることなく、できうる限りの面を取り上げて仏教を紹介できないものかと心を砕いたフランスの仏教信者たちがイニシアチブをとり、1996年に創設されたものです。したがって、この大学は、たとえば瞑想入門などが期待できるセンターでも、実践の場でもありません。仏教センターなどで受けられる伝統的な教えに、より学術的な視点を付加しようと願っているものです。受講者の平均年齢は40代ですが、若い学生たちや定年退職者たちも沢山おります。また長年仏教を実践してきた者、キリスト教大学の神学部から送られた者もいます。中には、書物や雑誌で読み始めた仏教哲学の入門を願う者、他の場所では見られない、より深い教えを求めにくる者もおります。今年は300人の受講者が講義とセミナーに参加しています。

こうして受講者たちは初日に、ドミニク・トロティニオン学長による『仏教学概論』コースの講義を受けたり、浄土真宗の信者でもあるスイス・ジュネーブ大学のヘレン・ラヴディ講師による『仏教芸術の諸原理』についての講演に耳を傾けたりすることができました。

この種の研究所としてヨーロッパで唯一の欧州仏教大学は、出会い、交流、対話の場を提供することを目的としています。

まず、フランスの仏教信者と大学人らとの出会いが挙げられます。これは、仏教を批判的、歴史的な視点に立ち、なおかつ広く大衆に紹介したいという意志の表れですが、フランスの地では仏教研究が人知れず行なわれるか、ほとんど存在しないに等しい現状を嘆いている研究者たちがそれに無関心でいるはずはありませんでした。創設当初から、大学で教鞭を執る方々より同プロジェクトに支援や激励が寄せられました。そのうちの何人かは定

期的に講演や授業を担当しています。たとえば、今年は、パリ第1ソルボンヌ大学のフランソワーズ・ボナルデル教授が『仏教における意識の概念』について2回にわたって授業を行ないます。

2番目の目的は、仏教のさまざまな流派の、そしてそれを越えたアジアの仏教信者たちと西洋の仏教信者たちとの出会いの場です。フランスには東南アジア出身の人たちが大勢住んでおります。たとえばベトナムからの『ディアスポラ(離散者)』は100万人近くいます。それにもかかわらず、彼等はお互いに真の出会いもなく、フランスの仏教は今なお細分化された状態です。

わが仏教大学の建学の精神は、たとえ受講者の過半数が『生粋の』フランス人であるにせよ、誤解により『民族的または文化的』であると言われているこの仏教の代弁者たちを一同に集め、発言の場を提供することにあります。フランス人によく知られているヴェジラヤーナ(密教)あるいは日本の禅だけでなく、南伝仏教(テラワーズ)や浄土真宗など、すべての仏教を紹介しようと全力を尽くしております。

とドミニク・トロティニオン学長は強調しています。

3番目は、さまざまな宗教間の出会いです。欧州仏教大学は独自の校舎をもたず、授業はパリ中心部のカトリック共同体が管理する文化センターで行なわれます。開かれた精神を願う欧州仏教大学では、カトリックへの物理的な距離の近さだけでなく、他宗教との交流のため、数多くの出会いの場に積極的に参加しています。

欧州仏教大学にはいくつかの専門課程があり、現在の4段階の課程が設けられております。

第1課程 「仏教学概論」(通年講座)：10月から来年6月まで月1回(午後)の割合で授業が行われます。受講者は仏教の歴史、教理、実践などを網羅した概観を学びます。このカリキュラムは、ドミニク・トロティニオン(南伝仏教)、フィリップ・コルニュ(チベット仏教)、ジェローム・デュコール(浄土真宗)、エリック・ロンムリュエール(禅)の著名な4人の仏教教師によって組まれたものです。

第2課程 「教理概説」(通年講座)：「仏教学概論」をすでに受講した者を対象としたコースです。



当大学主催シンポジウム『仏教と人権』にて



当大学主催シンポジウム『仏教と人権』にて

第3 課程 個々の特殊なテーマを取り上げたセミナーです。

第4 課程 仏教思想書の研究を中心としたセミナーです。今年、早稲田大学およびパリ高等社会科学院卒で、道元禅師の「正法眼蔵」をフランス語に訳した翻訳家、折茂ようこさんが「正法眼蔵」の有時の巻に関する授業を行ないます。

なお、すでに数年前より、欧州仏教大学ではインターネットによる「仏教学概論」の授業を開設しています。受講者は私設のフォーラムを通じ、オンラインで教師とコミュニケーションできるようになっています。人類最古の思想の一つである仏教のために、インターネットという最新技術が活用されているのです！

欧州仏教大学のサイト（フランス語）

<http://www.bouddhisme-universite.org>

（筆者紹介）

エリック・ロンムリュエール師は1960年生まれで現在46歳。17歳の時故弟子丸泰仙老師と出会い、1981年弟子丸老師について得度、2001年故丹羽廉芳禅師の高弟の一人である西嶋愚道老師より嗣法を受けている。僧名は靈林道城。現在は欧州仏教大学の副学長であるが、メンバーが100人程の《Un Zen Occidental》の会長を勤め、パリと南仏のカヌで定期的に坐禅会と摂心を主催している。代表的な著書は《Les fleurs du vide（空華）；Paris,Grasset,1995》《Guide du Zen（禅ガイド）；Paris,Hachette,1997》など。次の著書は自身の法系の中に発見した幾人かの祖師方を取り上げた《Zen : l'Audace de vivre（禅：大胆な生き方）》を予定、来年1月の出版に向け鋭意執筆中。氏は2000年より『Journal of Global Buddhism』の編集役員も勤めている。

（文責：永明寺 加藤孝正）

くらやみに ねむる法具で 国際布教

使われていない法衣や法具
（袈裟、絡子、笏、払子、数珠など）を
海外僧侶のためにご寄贈ください。

「威儀即仏法」を説く曹洞宗の仏法は、正式な法衣・法具と共に師匠から弟子へと伝えられています。また、国際布教師の努力によって、海外の檀信徒・僧侶にも仏法は伝えられています。しかし正式な法衣・仏具は、海外で得度する僧侶の増加に伴い、不足が目立ってきました。

曹洞宗の仏法を海外僧侶に正しく伝えるため、各ご寺院で使われていない法衣・仏具がありましたら、是非とも、ご寄贈いただきたくお願いいたします。

連絡先：SOTO禅インターナショナル（亀野）

〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内

TEL 070-5551-8852

第8回「ゆめ観音」アジアフェスティバル in大船

S Z I 事務局長 亀野哲也（横浜 貞昌院 副住職）

**開催日**

平成18年9月2日

開催場所

大船観音寺境内

主催

ゆめ観音実行委員会
 (大船観音寺・SOTO
 禅インターナショナル・
 神奈川県第二宗務所第
 五教区)

後援

鎌倉市・神奈川県国際
 交流協会

URL <http://www.soto-zen.net/yume>

平成18年9月2日、第8回を迎える『ゆめ観音アジアフェスティバル』が、鎌倉市・大船観音寺を会場として開催されました。

大船観音寺は、世界の恒久平和を祈願して建立され、近年は特にアジア諸国からの参拝者が多い特色をもつ曹洞宗寺院です。

サブタイトルは「つながる ひろがる アジアのねがい」・・・平和の願いを日本からアジア諸国へ、そして世界へと広げていきたいという思いを込めて、大船観音寺、SOTO禅インターナショナルを中心に組織された「ゆめ観音実行委員会」の主催、鎌倉市・神奈川県国際交流協会の後援、神奈川県第二宗務所第五教区ほかの協

力を得て、これまで運営されて来ました。

開催日当日は、前日の雨もあり天候が心配されましたが、一転してこの上ない好天に恵まれ、多数の来場者をお迎えすることができました。来場者は実に2千人を数え、大船の街を見下ろす会場は、一日中賑やかな雰囲気になっていました。

今年は、特に中東をテーマとし、ブースでもイラン料理のイスガへホルポリや、フルーカが売られ、舞台においては各国・地域の民族舞踊のトリとして、kahina、CO₂ 鮎美、masaによるベリーダンスが披露されました。宵闇に包まれはじめた夕暮れの境内は、秋の気配を感じさせる風が心地よく、ライトアップされた白衣観音像と夜空に浮かぶ月明かりが幻想的な雰囲気を醸し出します。

祭典の締めくくりには、萬燈供養法要が大導師・大本山總持寺監院・大船観音寺住職・伊東盛熙老師、焼却師S Z I 会長・福島伸悦師により厳修され、大導師の「自分の命を大切にできる人は、他の全ての命を大切にできる人です。どうか命を大切にしてください。そして、他の人々の幸せのためにも御参詣いただきまして有難うございます。」の法話を以って祭典は幕を閉じました。

軽自動車がやっと通れる程の急な参道、さらに舞台は長い石段を登った先という会場において、事故もなく円成できたことは、観音様の御慈悲と運営に携わった多くの方々の方々の力によるものだと思います。

今回のアジアフェスティバルにお寄せいただきました浄財は33万9千円でした。神奈川県国際交流教会・かながわ民際基金に寄付をさせていただきましたことをご報告いたします。



地球市民ACTかながわ（タイ民芸品）



溢れるギャラリー

第8回 ゆめ観音アジアフェスティバル記録



女性同盟湘南西湘支部
舞踊同好会（朝鮮舞踊）

[舞台] 12:00 ~ 20:00

- ゆめ観音実行委員会
（開会・平和のメッセージ）
- WADA
（ベトナム・月琴）
- 女性同盟湘南西湘支部
舞踊同好会（朝鮮舞踊）
- 神奈川朝鮮中級学校
（朝鮮舞踊）
- わせだ風街宣伝社
（ちんどん）
- 山中ひとみ
（カンボジア舞踊）
- 甘建民（中国二胡）

- 和太鼓JUZO（創作和太鼓）
- Madhu-Priya（インド舞踊）
- 伊藤公朗（シタール）
- UÇ <<ウチュ>>（ベリーダンス）
- 萬灯供養（平和祈願）

[出店] 11:00 ~ 18:00

- カナガワビエンナーレ（絵画展示）
- インド政府観光局（観光ガイド）
- 東京アショカ（インド料理）
- ネパリ・バザーロ（喫茶コーナー）
- オモニの会（朝鮮料理）
- We21 ジャパン（リサイクルショップ）
- フルーカ（中東料理）
- アースママショップ（オーガニック食材）
- 地球市民ACTかながわ（タイ民芸品）
- イスガへ・ボルホリ（イラン料理）
- 印度支那倶楽部（東南アジア工芸品）

萬灯供養法要 差定

大導師 大本山總持寺監院伊東盛熙老師
焼却師 S Z I 会長福島伸悦老師

- 一、殿鐘三會
- 一、七下鐘導師上殿
- 一、般若心經
- 一、仏陀神呪
- 一、配塔婆（読経中写経）
- 一、収塔婆
- 一、舍利礼文三返（読経中三拝）



UÇ <<ウチュ>>（ベリーダンス）

- 一、拈香法語
- 一、献茶湯
- 一、世尊偈 行道二匝（読経中塔婆焼却）
- 一、回向
- 一、大導師法話
- 一、散堂

スタッフリスト（順不同・敬称略）

■ 大本山總持寺

伊東監院 監侍 監録 大船大衆

■ S Z I

福島伸悦 亀野哲也 菅原研州 館盛寛行
内山温子 藤田郁雄 太田賢孝

■ 第五教区

松山典生 石田征史 関水俊道 竹内信之
山本雅彦 篁 保雄 梅田良光 馬場義実
石田征良 梅田保彦 北尾康樹 黒田博志
近藤一崇

■ 宗務庁

瀬野美佐 岸本茂枝 村田昭元

■ アナウンス

黒米さゆり



ゆめ観音萬灯供養法要

… 国内レポート …

平成18年度 聖護寺国際安居レポート

聖護寺国際安居 講師 ^{すずき} 寿松木 宏毅 (秋田県 永泉寺 副住職)

熊本県菊池市の山中に、大智禅師が20年間住まわれた聖護寺という古刹がある。いまだに電気を引かず、ガスもない。この無檀のお寺で毎年5月半ばから、7月半ばまでの2ヶ月間、夏安居として海外からの修行者（主に出家者）を受け入れている。縁あって、10数年前から、毎年短期間ではあるがこの国際安居に参加し、海外からの修行者と起居を共にしている。

1960年代、アメリカを中心に起きた禅ブームは、すでに一定の落ち着きを見せている。当時、日本文化を象徴していた「ZEN」なる言葉も、欧米では「ZEN」から「ZAZEN」へとその意味するところが、より具体的に、より本質的なものへと変わっていった。

そして、今、海外の仏教は、在家の人たちを含んだコミュニティの時代をむかえていると言われている。このコミュニティ（共同体）とは、仏の教えに集う「サンガ（僧伽）」を意味する。つまり、仏法僧の三宝の中心にその「サンガ」を据えることによって、仏を生み出し、法を生み出そうとしているのである。

聖護寺国際安居では、海外からの修行者は、毎日の差定を気負うことなく行じている。すべてにおいて合理的な考え方をもち、自己を主張することを常にして育ってきた欧米からの修行者でも、日本の僧堂生活にすんなり溶け込み、実に素直に順応している。このことは単に禅への興味とか関心だけの次元ですまされるものではない。

イタリアからの安居者は言う。

「自分は東洋の禅だからといって関心をもっているのではない。そこには人間の生き方に関して最も大切なものがあるからである」と。

これはとても示唆に富んだ言葉であった。自分の人生の問題や苦悩と深く関わりながら、具体的な修行を通して仏道を学ぼうとしている姿勢が、とても強く感じられる。

1日24時間を「いかに生きるべきか」その真摯な問いかけこそが、はるか異国の地である日本での修行へと彼らの心をかりたてている、と私は考えている。その生き方とは、「サンガ」のなかで、朝夕の坐禅を中心に、作務をすること、経典を学ぶこと、食事を作ること、食事をすること、そのような日常の僧堂生活に身をゆだねながら、仏教の教えと智慧を学び、そこに心の安らぎと喜びを感得する生活を創造していくことなのである。

そうした自己の生き方が、おのずからまわりの人々の心底に浸透し、そして他の人々を教化していくのではあるまいか。自己を修練する修行は、自分に向かい合う場であると同時に、社会に向かい合う場となるのである。

「アメリカの一時の禅ブームは終わり、衰退期に入った」とある人は言う。しかし、そうではない。欧米の「サンガ」の中から、根を深く張り、彼らが求める新しい仏教の姿が立ち現れてくる胎動を、私は強く実感している。



国際布教支援金交付決定のお知らせ

S Z I 会長 福島 伸悦
 委員長 飯島 尚之
 委員 秋田 弘隆 月出 俊典
 幹事 亀野 哲也

2006年度の総会において、SOTO禅インターナショナル会則第16条第3項に則り、国際布教支援積立金運用細目が制定され3月1日から施行されました。

会報等で募集を行ったところ、2件の応募があり、細目第7条により、国際布教支援積立金運営委員会が10月26日、檀信徒会館第一分館3階会議室において開催されました。

委員会の議決により、下記の2件につき、交付が決定されましたことをご知らせいたします。

記

①アンヌ・道学・ポエラート氏への奨学金としての支援（20万の支給）

ポエラート氏はベルギー生まれ。横浜国大仏語講師、ハーグ高等裁判所公認通訳、パリ高等裁判所通訳等を経てG. P i l e t の元で授戒の後、福井・天竜寺において出家。現在は駒澤大学大学院禅学科で石井修道先生の元、研究を行っています。

②ブラジル・イビラス禅光寺へ在家用応量器の実費支援（50組27万1225円）

以上

2007年度「国際布教支援積立金」のご案内

2006年度に引続き、来年度も国際布教支援積立金の応募を受付いたします。
 運用細目および申込書については会報31号か、ホームページをご参照ください。

応募資格：曹洞宗の国際布教事業に対する内外の寺院、団体、個人

支援額：年度総額100万円

問合せ：SOTO禅インターナショナル事務局

両大本山ワークショップアンケート結果 全文掲載

場 所 大本山總持寺
日 付 2006年6月23日
演 題 「日本の禪・世界の禪 - 在日34年の体験から」
講 師 プライアン・パークガニ先生（長崎総合科学大学教授）

講演会の感想

【大本山總持寺 雲水】

- 口は災いの元、以心伝心などの言葉の起源が禪であるとは知りませんでした。日本人のコミュニケーションの方法が禪にあるということ、禪と日本人には深いつながりがあるということが分かりました。私も表現力、意思伝達能力に乏しいので、これから身に付けていきたいと思えます。日本人の考え方、心を私も大事にしていきたいです。私も日本人の心がこれらの人類の生活において重要だと思います。禪の話を聞かれたら今回の講演を参考にしたいと思えます。（静岡県・1年）
- 禪の意味が分かった気がします。西洋と東洋の考えの違い、日本と世界の言葉の違い、自分は日本で生まれて日本人として生きてきたから、あまり深く考えたことがなかったけれど、今日の講演を聞いて「日本」は島国だけあって考え方や言葉の意味など、何か神秘的というか、変わっている。深いと思いました。「日本」について考えさせられる話でとても面白かったです。（千葉県・3ヶ月）
- 「禪」について分かりやすく話していただきました。「禪」以外にも先生の文化を体験したことなど、とても面白かったです。
- 西洋の方が禪に対して取り組んでいる話を聞き、日本人の僧人から聞くものとは違い、新鮮な観点で禪について学べたことが大変になりました。
- 「表現」、コミュニケーション、言葉不足でも伝わる力を養っていくのも大事。わかる気がします。カナダから見た日本・禪は色々な見方があるものだとということが本当に分かった。
- 非常に分かりやすく聴きやすい講演だったと思う。「禪の心は現代社会には重要だ」というプライアンの言葉が印象的だった。日常生活に即した話で良かったと思う。（青森県）
- 日本人は腹が据わっている、呼吸法が独特であること、弓道の研修を受けてそう感じたとおっしゃったが、それは禪に関係があるというのには自分も思うところである。日本で発展したスポーツを通して、柔道・剣道・弓道があるが、練習の時でも試合の時でも、正座をして精神統一をする。書道・華道・茶道でも細かな作法があるが、それだけでなく、気を利かして手を敬い、コミュニケーションをとる。日本で行われている礼儀作法は独特の文化であり、西洋にはなく、学ぶべき点が多くあるというのは、禪の哲学を広めていくという事でもあると思う。日本の良さ文化を世界に広げていく事で、禪を少しでも理解していたらという点は頷ける点がある。（山口県・2年）
- 外国人の人にとって禪「ZEN」という言葉は新鮮なかもしれない。今日の講演の中で「ZEN」という意味が知りたくて坐禅を始める外国人の人が多いという話には、日本人の私から見た不思議な感じがする。それだけ「禪」という言葉には何かを引き付けるパワーがあるように思える。また、日本人が考える「お寺」のあり方と西洋人が考える「お寺」のあり方が違うことを初めて知った。よく外国の人たちが街で「禪」と書かれたTシャツを着たりするので、外国人の人から見た日本の文化「禪」は、もう日本だけの文化ではなく、世界的な文化なのかもしれない。（大阪府・1年）
- 日本語の発音は難しいということを知りました。「はい」にも色々な意味があると思えました。「自分自身を見つめる」という言葉が良かった。（宮城県・3年）
- 西洋の方から見た「禪」というものは、日本人が理解しているものとは少し違ったものがあると思った。日本は本当に不思議な国なのだ改めて実感した。禪というものを、これから先、全く知らない人に「何ですか」と聞かれたときに、きちんと自分の中で答えを持って伝える事ができるようになりたい。
- 「日本の禪と世界の禪」というテーマでの講演会でしたが、「日本の思想と欧米の思想」という感じに受け取れました。日本では「恥ずかしい」恥ずかしくない文化」というものが多々あるのではないかと感じました。自分が当たり前に感じていたことが、外国の人にとっては全く違う受け取り方になるというのは、大変勉強になりました。自分の考えのみにとらわれず、大きな目で見られるようになりたい。（愛知県・1年）
- 改めて日本語は難しいと思った。同じ漢字でも読み方が違うといった些細な事でも重要だったりするし、同じような言葉でも意味が全く違ったりする。そういう言語を面白く、自分の体験談で話してくれたので聞きやすかった。（兵庫県・3ヶ月）
- 日本人側から見た禪修行ではなく、他国のプライアン先生からの視点で見た様子を聞いてとても新鮮に感じました。日本人の良いコミュニケーションのとり方、「あんの呼吸」などは世界に誇れるものだと思います。また、古き良き文化に目を向け、リサイクルの心など現代に必要なものをそこから学び、良い伝統は引き継いでいくべきだと思います。
- 日本人と外国人の感覚の違いがだいぶあり、プライアンさんが日本に来た時、言語の感覚に戸惑いを覚えたという点が印象的だった。「こんにちは」の表現の違い、「おい」の一言で通じ合う「以心伝心」のコミュニケーションなどは興味深かった。（山形県・1年）
- 日本の禪、西洋の禪。根本は「坐禅」と「祈り」で似ているという言葉が印象に残った。禪、国際文化交流はまだまだ進んでいないようなので、身近な所から考え直していくべきだと分かった。
- 普段、聞けないような話が聞けて良かった。先生の話を聞いて日本文化の素晴らしさを再認識できた。（埼玉県・1年）
- 近年、外国の方が坐禅をする光景を目にする機会が増えてきていると思います。それは日本の文化である和の共鳴（テイスト）が興味を引いているのではないかと思います。その中で禪宗は全てにおいて完成された宗教だと思います。厳しさも一番、美しさも一番、お経の中身も素晴らしいと思います。これからも海外の方々にもっと日本のお寺に関心を持ってもらえれば幸いです。

【一般聴講者】

- 結論としましてとても有意義でした。先生のことをインターネットで調べてもっと深く知りたいと思えます。本を求めるつもりです。
- 禪は自然で生きること。言葉でない心で伝える。日本の禪は心から生まれる。素晴らしい。（東京都）
- 禪の心を持ちながらも国際的に通じる表現力を身に付けるという意見はもっともなことだと思います。「下流社会」等の書物にも、表現力がこれから必要となると話されており、下流・

上流という表現には問題があるとは思いますが、金銭ではなく、表現力の必要性は強く感じています。（東京都）

- 日本心の持つ問題がよく浮き彫りに示され、考えさせられました。日本と西洋の問題で男女差別の問題をもっと伺いたかった。日本は戦後の女性解放。（千葉県）
- 言葉というは不思議ですね。表面的なものから、よくあんなに深いところまで考えられるなど驚きました。日常生活の一つ一つ全てが考えていく対象なのだと感じるようになったらと思えます。
- 「一応・・・」という表現を「はっきりしないので良くない」と思っておりましたが、そこに込められた「思いやり」ということを言われて初めて気づきました。自分も同じ気持ちで今まで使っていました。（愛知県）
- 外国の人の考え方や感じ方が多様であることがよく判った。文化背景の差異について判った。（神奈川県）
- 日頃から日本人はもっと日本の文化・精神に目覚めて勉強すべきと思っているが、改めてそのことを示唆された様に思われた。（神奈川県）
- 先生の日本語はとても美しく分かりやすかったと思えます。禪の語源は「専念する」こと。「日本の教育は教育そのものためではなく、別の目的のために行われている」と言われたことが印象的でした。本当にその通りだと思います。数年前、成人向けのカルチャーで計画し、禪寺をいくつか廻りましたとき、早朝に聞いたお経の音色がとても美しく心に響きました。氏は天台宗の信徒ですが、本日懐かしいお経の音に包まれて、とても幸せな気持ちになりました。五七の桐のお寺の紋は私の家紋（桐家）と同じなので何となく今日参りました。夫婦は一心同体であるという日本の考え方があると話されましたが、現代ではあまり女性はそのような考え方をしている人は少ないように思います。古い時代に男性側が理想として表現した考え方だと思います。（神奈川県）

講演会への今後の希望

- 海外の道場の紹介。（静岡県・1年）（千葉県・3ヶ月）
- 実際の活動内容を知りたいです。現在の活動している国や人数なども知りたいです。
- 他国での布教活動や交流について興味があります。
- 国際布教師の人から現地の報告を聞きたい。（大阪府・1年）
- 実際に現場で活躍している方の講演を聴いてみたいと思う。（青森県）（東京都）（神奈川県）
- 海外で活動している人の体験談などを聞いてみたい。（兵庫県・3ヶ月）
- 今回のように国際社会を学ぶと共に、禪を学ぶという講演を次回も期待したい。（山口県・2年）
- 今回のように外国人の人から見た禪・文化などの話が聞きたい。（大阪府・1年）
- 日本語以外の言語の達人の経験談。（神奈川県）
- 国際交流をしてみたいです。
- 僧侶として為になる話。知識となる話。（愛知県）
- 多言語を学び、覚えるテクニックについての経験談。（神奈川県）
- 禪の良さ、他の宗教との違いについて。
- 日本の伝統を生かしながら、新しい時代に合った活動をするにはどうすれば良いかを聞きたい。（埼玉県・1年）
- 実際の活動の映像を見せていただければ、もっと興味を持てると思えます。

場 所 大本山永平寺
日 付 2006年7月3日
演 題 「誰のために修行しているのか」
講 師 町田宗風先生（広島大学大学院教授）

講演会の感想

- 修行に対してかなり追求した話を聞かせていただきましたが、修行というものをあやうく、論理的に考えてしまうと、自分の場合、意味が分からなくなってしまうので、考えないようにします。そんなにつきつめる事でもない気がします。（愛知県・1年）
- 現在の修行として何が大切なのかという事の手がかりとなった。宗教家としてどのような姿勢で取り組んだりよいかを発見できた。（兵庫県・1年）
- いつもは国際的な話題が多いのですが、今回は大学の教授の方を講師として迎えられ、内容的に新鮮だったと思う。在家出身の方だったのでいろいろな角度、方面からのもの見方（今の坊主さんには欠けている）、意見などが聞け自分自身、身心ともに痛感する思いでした。
- 前回は、海外での布教の事を中心に聞き、僧侶として海外でできることを学びました。今回も、海外での経験を聞きたかったのですが、講師の話は経験というよりは、今の宗教・仏教について私達修行僧に強く訴えています。とても身体が熱くなり、反論したくなる点も多数ありましたが、逆に自分の無力さ、無知な事に気付かされました。私は今、何も疑問もつたなく、時の流れにまかせて、充実した安居を送っています。修行が楽しいと思うことさえあります。今日の講義でそれを否定されたのも良い感じでしたが、最後の質問に答えられていた先生の先生をみて、こういったのも良いなと思いました。こういったのは、お互いが意見をぶつけ合い理解していこうとする姿勢です。これからもこのような講演会をしていただきたいです。（長崎県・4年）
- 実体験からの話が多くて興味深かった。ただ、なんら生産的な事をせずに、ひたすら行ずる事には疑問が残る。行ずる事によってどんな成果がもたらされるかの具体的な話が聞ければよかった。（そういうことを、今考える必要はないとの事でしたが。）（静岡県・1年）
- 講師御自身の体験を通してのお話、言葉であったので、素直に話を聞くことが出来ました。雲水時代の反省をふまえての「真剣な坐禅を今しなさい」修行は已事究明である「禪定力を練らなければいけない」等のお言葉は、永平寺で修行をし、これから社会に出て行く私達への期待の言葉として、又、修行を疎かにしてはいけないという訓戒の言葉として心に強く残りました。ありがとうございます。（神奈川県・6年）
- 正直などこと、一長一短な講義で自分の修行に打ち込む気持ちを再確認するような講義であった。全ての行動が「縁」であるとは言い切れないが、人は欲するとその方向に向かって

走ることが出来る。つまりそれが、求道心であり目標というものではないだろうか。自分だけがそのような欲さない縁に従って生きていても必ず一人ではなく誰かに支えられて常に来ていてということ。已事求道しても、し続けることは何の為にもしないと思う。場所や考えを変えなければ一切に足るといふ考えもあるだろうが、場所や考え、環境を変えることで、人と自分自身が感銘を受けたような事象を経験することだってある。修行中に確かに雑念を抱くのはいけないことであるが、人を救う立場にある僧侶にとって、協調性をやさしさに満ちあふれる事が出来るのは、人とコミュニケーションを図ることでは出来ないのではないだろうか。しかし、自分が考えもしないところも聞くことが出来たので、参考になる講義だった。(長崎県・1年)

■本日の講演会は、とても私にとって為になるものでした。私は今年2月に安居をした者です。私は安居をするまで家の(お寺の)手伝いはごくわり程度しか行っておらず、私は修行の目的をまだ見つけられていなかったのですが、今回の講演を聞いたことで、行に対する姿勢、考え方について深く考えさせられたのですが、修行の目的までは見つけられていませんでしたが、少なくとも一日一日を大切に真剣に行ずべきだと感じました。(埼玉県・4ヶ月)

■本日の講演会は言い方は悪いかもしれませんが、とても楽しかったです。最後の質問の時間が本当日に回答をしているようで興味深く聞き入ってしまいました。

■私が普段考えていることをズバリ言い当てられた気がしました。私はいつも、私が目標としている父のような僧侶になれるのか、不安に思いながら暮らしています。又、周囲の皆の仕事の出来具合にただひたすら劣等感を感じております。ですが、本日の講演で今やるべき事をひたすら実行することの大切さ並びに難しさを教えられる気がしています。悩みも持つ私ですが、それすらも抱えて小車院での公務を日々こなしていくつもりです。ありがとうございました。(秋田県)

■話が非常に分かり易かったです。SOTO禅インターナショナル主催の講演会ということもあり、これからの仏教を如何に伝えていくべきか参考になるよい講演会だったと思います。

■「修行の時は今を置いて他にない」という氏の主張は非常に明快だった。また、佛教・キリスト教・イスラム教など宗教に関わる者に共通する点として「傲慢」という点を挙げておられたが、確かに一般人よりも己を高い位置に据えたい傾向があることに改めて気付かされた。安居三年目を迎え、永平寺で一つの区切りとされる修行を終えて寮長という配役を頂くとき時間や心に余裕が生まれ、日々を悟性で過ごしている事に背けがちな自分にとって、安居の原点をもう一度考えさせてくれたと思う。(秋田県・3年)

■一番最初に、先生が正面に座られたときに、心の奥を見透かされた様に感じました。お話の初めの方は、何か喧嘩をしかけていた様に、叱られている様に卑下されている様に感じました。その時はまだ自分の中に「私達は永平寺の雲水だ」という高慢さがあった様に思いました。知った風な口をきく人だ、そういう人ではないかな、という疑いの目を持ちました。しかしお話が進むにつれ、そのお言葉の一つ一つが明朗で分かり易く、かぎもなくなり、ただただ重い、まっすぐな言葉が私の中に入ってきました。永平寺に上山する前に、お坊さんになろうと思った時に、同時に自分の中にあった迷いや、お坊さんに対する疑問、汚さに対する怒りの様なものを、私達の前で話して下さった。心がすかっとなりました。また、今まで持っていたのに、自分の中で勝手に解決していた疑問を思い出させて頂きました。永平寺で早一年が経ち、侍真察も終わり、心に余裕が出来たと同時に、上山の時に持っていた決意や本気さ、真剣さ、まっすぐな気持ちをどこか忘れていた事に気付かされました。お話を聞きながら、心は喜び、泣いていました。(京都府・1年)

■雲水の期間は一心に修行し、外に出たら幅広く、俗に応じてという所はよくわからなかった。話を聞いて、僧侶という生き方自体が現代ではできない事を実感できました。

■禅といふのはとても大切な事だということを感じました。しっかりとした禅というのは御山にいる間しか出来ません。日光返照の退歩を学すべき。(2年)

■お話が自分の安居中の心の置き所や、安居が終わる自分の進路についてのとてもよい参考にもなりました。

■どの様な修行生活を送れば良いか悩んでいる中、とても有意義な話を聞くことが出来、とても嬉しく思います。「雲水である今を大切に」ということは、忙しい安居生活で何事もおろそかにしないうちに忘れていたことのように感じます。(神奈川県・1年)

■講演会は途中までしか聞く事が出来なかったのですが、以前に修行されていたという事で、今後の修行生活の参考になる話が多かったです。(宮城県・1年)

■何かつとさんく講師でしたが、「非僧非俗」という立場は、現在の日本の仏教を深く考えていけば、とらざるを得ない立場だと思います。今は雲水として今の事を考え、行ずる事に専念すればよいということには深く同調しました。時が至れば環境も変化してゆくでしょう。

■時間を無駄にしてはいけないとありましたが、私としては修行している中であまり無駄が多いと思いません。一分一秒を無駄にせずいろいろな経験を積んでいきたい。(静岡県・1年)

■本日はありがとうございました。とても面白く興味深いお話ばかりで、多くの事に気付くことが出来ました。一番考えさせられたのが、お坊さんと在家の方達との関係です。今日の社会においては良いイメージだけではない。そんな社会の中で僧侶という職に就くことから永平寺での修行の時間を本当に大切にしなければいけないと思いました。永平寺で修行したからといって傲慢にならず、修行をさせていただいたという感謝の気持ちをもって在家の人々と接し、良い関係を築いていけるお坊さんになりたいと思いました。

■見た目は普通の人間に見えるのに、仏教の教えを身体にしみこませている人だと感じた。だが、結局何を求めているのか、目指すものが分かりにくかった。多くの経験をした人の話を聞くのは楽しかった。

■体験にもとづく講演であり、安居に参考になった。修行の場は常に足下にあるということをもう一度考え直したい。(山形県)

■今日の講演にあたり、まず私が強く思った事、それは、今までの私の生き方が正しかったのか、という事です。時間と心、この関係性に強さ惹かれました。そして「本を読む」と言われた時、この永平寺で読んだ本が、ことごとく薄れていきました。本を読む事は好きです。私の中での知識は、本からのものが大半です。そこに実践があるか、と言われれば何もなし。私の持ち方一つで周囲を気にすることなく、私自身でぶつかっていけば良い、と先生との質問の中で強く強く感じました。どんなにヘタでも良い、そこに己の心があれば全てが通じる。心の大切さ、己の心の持ち用を今日改めて、気付かせていただきました。(鹿児島県・4年)

■本日の修行は僧堂の中でだけではなく、社会に出てからが重要です。今自分が何のために修行しているのかわからなくなる時がありますが、僧堂を出てからのことを考え、一瞬一瞬を生きていきます。(福岡県・5ヶ月)

■町田先生ご自身の体験をもとにお話された内容は、私達雲水にとってはとても興味深い内容でした。雲水はただ修行のこと、つまり私達にとっては坐禅さえ行っていれば良い、それ以外の事、例えば娑婆世界で爆弾が落とされたとしても気にする事はない。と何だか開山のお言葉のように感じたのは私だけではないと思います。行とは孤独の益利、寺とは人々に生きる力を与える場所であるとお示しになられたのは感動しました。確かに道元禪師も「わずかに一人一時の坐禅なりといえども、諸法と相実し諸時とまどかに通ずる」とお示しになられています。私達が現役の雲水だからこそ、今回のお話は大変楽しくお話聞くこと

ができました。これからも日本中の雲水さんに、こんなお話を一人でも多くの方にお話される事を祈念致します。(愛知県・5年)

■とても貴重なお話を聴けたと思っています。先生の坐禅が緩いにつながるという話はとてもおもしろい話です。今まではそのような考えを私はしたことがありませんでした。坐禅が宇宙にまで広がる考えもなかなかおもしろい話です。今までは私は坐禅をするときには意識・呼吸を基点として宇宙や自然と一体化する様なイメージで坐るのが良いと思っていました。先生の話はとても参考になりました。(新潟県・1年)

■「誰のために修行しているのか」の答えが「自分」であったが、その先に「他人」の事を思いやることへのつながりをもう少し具体的に話してほしい。また、安居生活と俗世を切り離して考えられていたが、少しでもつながりがあるとかがあれば話してほしい。(山梨県・1年)

■重箱の角をつつく様な質問や意味不明な質問が飛び交う楽しい内講でした。講師の方も十分あきれられたこととします。

■「宗教家は傲慢、勉強が足りない」の一言が印象に残った。僧として祖縁や仏教書も大事だが、もっと他にも勉強しなければならないと思った。

■雲水として修行した人の言葉は大変興味深く聞く事が出来た。(千葉県・3年)

■最初の言葉、雲水という時間(二度と帰ってこない時間)という言葉が心に残りました。今を生きたか言葉は聞きましたが、雲水という時間、この表現が今しなくてはいけない事が見える感じがしました。(青森県・3年)

■いつになく質問が多い講演会だと思った。内容も平易で今年入ってきた一年目の者達にはちょうど良いと思った。一貫性のある内容で、「今」をムダにしないというメッセージがはっきりしていたと思う。(長野県・3年)

■今回の講演を聞いて、今の修行生活を大切にしていかなければいけないと感じました。修行生活は今この瞬間しかないのだから、今のこの時間を大切にしていきたいと思えます。

■今回の講演を聞いて、永平寺での生活の仕方を改めて考えることが出来ました。確かに今の永平寺での生活を考えてみると無駄に時間を使っていることが多いと思いました。このままではここを降りた後に後悔してしまうのではないかと思います。もっと今を一生懸命過ごしていこうと思っています。そう思っただけでも今回の講演をきくことができてよかったです。

■宗教家の方でなく、宗教学者の方のお話を聞くことができ、視点が広がったと思います。ただ、宗教は宗教学(学問)とは厳密に言え異なるので、理屈では納得できても、感性(心)では納得できない部分も正直ありました。なぜ、それほどまでに僧侶としての生き方を称賛するならば、今は在俗の形をとっているのでしょうか。そこがやはり、宗教家と宗教学者の違いだと思います。(北海道・5ヶ月)

■私は何の為に修行をしているのか。周りの仲間達は何のために修行しているのか。そもそも修行とはなんなのだろうか。多くの疑問にかられることがありますが、今はただ「坐ること」に集中する。その大切さと、その難しさに苦しみながらの日々ですが、とにかく何年いようとも無駄にしないこと、謙虚な心を忘れないことを大切にしていきたいと感じました。

■何が良かったと言われれば何かわかりませんが、面白い話でした。違う演題でまた聴いてみたいです。(近畿・3年)

■乞服した時のご話を考えるなどとお話でしたが、すごい難しいことだと思えます。何も考えず、行にはげむというのは今の自分には無理かもしれないがいつかはそうなれたらいいなと思えます。(秋田県・2年)

■悟りは手に入れるものなのか?悟りを得た、開いた人の線引きは?町田先生が「この人は悟りを手に入れている」「この人は手に入っていない」と決めることはできるのか?じゃあ町田先生は悟りを開いた人ってこと?存在感を感じとれる人=悟りを開いた人、ならば雲水のしていることは関係あるの?在家の人にもそういう人が多く出てきているのなら雲水のしている「行」は必要あるの?先生のいう在家の人って坐ったりしていない人のことだよな? (愛知県)

■修行してるときは山を下りてからのことは考えるなどか、どこで修行してきたかを人に言わないだとか、私が今ですと考えていたことがダメと言われてとても驚きました。何も考えず修行していくなんて私にはなかなか難しいことだと思いましたが、今を真剣に修行しながらという言葉は私にできそうなので、これからはあまり考えず、今を大切に修行していきたいと思いました。(愛知県・2年)

■とても興味深い講義でした。元僧侶としての見解でお話して下さったので、色々考えることが多くありました。私は少し時間が少なくて感じました。とても面白かったです。ありがとうございました。(北海道・2年)

■難しい理解や、どこか夢物語の体験談などではない身近で親しみやすく分かり易い話でよかった。インターナショナルという点ではあまり国際色の強い親しめられなかったが、講演会としてはとても良かったと思う。もう少し時間があってもよかったと思うくらいだった。(岐阜県・2年)

■とても面白かったです。講演というたいていイメージを持ってしまいますが、時間を忘れて聞き入ってしまいました。講師の先生の話が終わった後の質問が多数ありましたが、先生の話が面白かったからだと思います。また講演を聞いてみたいと思いました。(宮城県・2年)

■永平寺に安居してまだ日があさいのでふと気になっていた、長く安居している(いた)人の思っている事が知ることができ、とてもおもしろかった。(3ヶ月)

■僧侶のほとんどが勉強不足というのを聞き、自分も勉強しなければいけないと思った。プロフィールを作っているという矛盾が、質問の答えを聞いてもあまり納得できなかったので、また聞きたい。

■とてもおもしろい話を聞いてよかった。久しぶりに講演を聞いた気がする。

■今は、今永平寺で出来ることを一生懸命やろうと思った。

■結構自分のためになりました。只管打坐がすべてです。

■自分にとっては非常に興味深く面白い講演会であった。もっと早い時期(高校生の頃)に先生の講演を聞きたくかった。質問等が、個人的内容すぎて出来なかった点が残念である。(岐阜県・1年)

■本山に居てはなかなか聞けないお話が多く、とても楽しく講演会を開きました。本音に近いお話が多く、口ごろ口にできない疑問にも答えが見つかりそうに思いました。(愛知県)

■先生がおっしゃった勉強不足という言葉が身にしみました。今は誰の為にでもなく、自分の為に修行するというのを、深く考えさせられ自分の安居生活を見直せる良い講演会だったと思います。最後に行った質問の時間も禅問答でこういうのを言うんだろうと思わせる内容の濃い時間で、もっと聞いていたと思ってしまいました。夜に電車で帰らなくてはならない位多忙なのに、貴重な時間をさいて私達に貴重な体験をさせていただいてありがたかったです。機会があれば大学の講義の方も聞いてみたいです。

■とても楽しかったです。先生の事はインターネットで少し見たことがあり、あれ?あの人かな?と思っていたら、やっぱりそうでした。まさか永平寺で講演を聞けるとは。ありがとうございました。(愛知県・1年)

- 雲水にとって「大事な時間」「ムダな時間」の区別がわかりません。この生活全てが修行(禅) だと思えます。
- 偉そうで嫌でした。反面教師にしてほしいなら、自分の駄目なところも話して欲しい。他人の批判ばかりで宗旨とは合わない内容だった。上の立場でモノを言っているのがありありとわかった。講演内容と、質問の回答に矛盾がある。
- 勉強不足の私には、難しい事はよく分かりません。そんな私でも今回の講演は大変分かりやすいものでした。しかし、結果的に何が言いたいのか、雲水としての時間は二度と帰ってこないから一切を無駄にしない行を行じるといった事は様々な本にも書いていますし、人からも何度も聞かされました。失礼な事かもしれませんが、先生のおっしゃった事はすべてどこかで聞いた事があるような事はばかりでした。そもそも僧侶＝宗教家という考え自体も違うような気がします。先生は20年近くも雲水として修行してから宗教家になった方だとお聞きしていましたので、今回の講演を楽しみにしていたのですが。
- 自分の行のうち、それを転じてということ、人の為とは？ 僧堂という場に身を置いていた中、自分の為の修行と外に出るからの修行、前者は考えられても、後者は想像がつかない。只、今を生きていこうと思った。
- 普段私たちが聴く講演では、宗教家の方も修行としては宗教家の方がほとんどですが、今回の町田先生のように学者でありながらも僧侶としての経験も長く積まれた方のお話を聴いたことは大変貴重な事だと思います。当事者としての経験談に加え、第三者的に分析された視点を持たれており説得力がありました。今後、僧侶として生きていく上で、一つの良い刺激となる講演だったと思います。
- 演題からして色々と考えさせられる講演であったし、講師の先生の話に自然と引き込まれる感覚で時間の経つのを忘れてしまった。とてもよかった。先生が言われるように「時間をおしんで懸命に修行して下さい」、頭ではなんとなく理解しているが、行動に伴わない事がほとんどです。少しづつではあるが頑張っていこうと講演を聞いて思いました。この様な講演が年に何度かあってくれればよいと思います。はげみになるので、この様に弱い自分も多少でも強くなればとおもう。(3年)
- テーマである「誰のために修行しているのか」ですが、自分の為と答えたいところですが、そうとも限りません。家族の為、檀家さんの為、様々な理由があっていいと思います。自分さえよくなった心構えを毎日を通していけば、おのずと道を歩んでいけるような気になりました。先生のおっしゃった「自我を捨てる」「先の事は考えるな」この言葉は残りの時よく古参和尚さんに言われてきたことです。こうやって結果的に、気付ける事を確信できたのでした。
- 今現在修行中の我々にとって、たいへん為になる講演会だと感じました。雲水としての時間を大切にしてください。(北海道・1年)
- 実際に永平寺を客観的に考えられる機会を与えて頂きありがとうございます。「郷に入りては郷に従え」とあるように、今の環境が当たり前のものと感じていました。自分にとっての修行がいかなるものか再度考えさせて頂ききっかけを与えてもらえたことに感謝しております。(千葉・4ヶ月)
- 曹洞宗の海外布教については素晴らしいことだと思います。坐禅を通して友好を深めることは、宗教を信仰する自由が我々に認められているので海外の人達にも曹洞宗の素晴らしさを知ってもらいたいです。(山口県・0.3年)
- 今の修行のようにするのか、又、永平寺を下りてからの修行をどのようにするのかよくわかりました。私も永平寺を下りてからの修行がきびきくなるような気がする。(福井県・1.5年)
- とても興味深い講義でした。先生のお話は共感できる部分が多く、言葉もわかりやすくあつという間に過ぎた90分でした。機会があればまた先生の講義をお聞きしたいです。(北海道・0.5年)
- ひじょうに聞き取りやすい声や、親しみの持てる話し方をされていたので、理解しやすくてよかった。内容も安居されていたことのある方が話してくれていたこともあって、説得力があった。雲水である今の時にしかできないことを純粋に追求して、日々修行していくことの重要性が講師の方の実体験に基づいて語られていたので、自分の心に響いた。このようなお話を聞ける機会を持って、とてもよかったと感じています。
- 多くの事を考えさせられました。何がかという町田先生の比較宗教者その立場の人の意見はすごく興味深かったです。閉祖様は道元禅師ただ一人であり道元禅師に近づく事、つまり絶対唯一無二な存在なわけであり、私達は比較するなんて失礼な事の様気がします。道元禅師がいて他があるという考えが一般的であり、町田先生にとって道元禅師は多くの良さ宗教家の一人ではないという考えも興味深かったです。修行は外の世界にあるといった考えはすごく共感しました。それは修行生活ではお金の悩みや仕事の悩み、恋愛の悩みほとんどありません。しかし外の世界にはあり、人生を振り返った時、修行生活よりも外で貧しい生活をした時の方がキツかったです。それに檀家さんの悩みも外の世界の悩みですね。(愛知県・1年)
- 言葉や文学ではなく、存在することで影響を与える人を目指す。私の修行目標の一つだったので、お話を聞いて嬉しくなりました。(北海道・4ヶ月)
- 現実を踏まえ、宗教界への失望感・期待感の深い実感が伝わる講演でした。先生が言われた如く、縁に従ってそれぞれの心を深めて行くことが我々修行者の勤めだと思えます。多くの宗教家(有名な)が傲慢との事、気をつけたいものです。(岐阜県・0.5年)
- 非常に聴講していて楽しく、解りやすい講義でした。先生自身も僧堂に安居されていて、親しみが持てました。安居している間は二度と帰ってこないで、ただひたすらに行きなさい、という先生の言葉は私達と同じ経験をした町田先生だから説得力がありました。(3年)
- 宗教者の傲慢、不勉強は昔より言われてきたが、当人が未だに気付かない。在家の人々を相手にするの一般社会の事を知らなくて話にならない。寺院という閉鎖された世界で問題なく暮らしてきたが、全てが表に出てしまう現代、今まで通りではやっていけない。修行生活でも社会に出てからも感謝の心を常に持ち、頭で考える、心で感じる。行動が伴うことを旨とし、誠実に真面目に生活し、相手の立場を常に理解する姿勢を忘れてはならない。(岐阜県・7年)
- 非常に良かったです。講師の方の考え方を直接聞いて、自分の中に新しい考え方が増え、満足というところまで。(北海道・4ヶ月)
- 今までの内講で一番真剣に取り組んできた。長い実践を経た方のおっしゃることなので大変説得力がありました。頭も固くなく人間味がありました。「行」という一瞬一瞬、ただ目の前のできごとをただやるということに、深い共感を覚えました。永平寺で修行している期間と僧堂を出てからの期間においての純粋な一つ一つの行動は、等しく、常にその場に修行の場があるということには感銘いたしました。本日の講義は時間が短く感じられました。(北海道・3年)
- まるで仏教の本を読んでいるかのような、わかりやすく良い講義だったと思います。ただ、町田先生がどうかはわかりませんが、お坊さんの話は口ばかりなところがよくあると聞きます。(3年)
- 何がインテンショナルな講義か不明だ。講義の内容としては、自己を見直すいい機会となつて良かったと思う。先生が現代の僧侶、宗教者は「ゴーマン」だと言われたが、その

通りかと思う。特に日本の宗教者は本当にその宗教を信仰しているのかどうか疑問であるにも関わらず、「ゴーマン」な態度で他者と接している。私もその一人であるのかもしれない。とりあえず、今は目の前の事に一生懸命になって一日一日を過ごしてみたいと思う。(3年目)

- 今回の講演会で最も印象に残ったことは、今は永平寺での修行に専念すればいいということでした。私は今、忙しい寮舎ながらも、将来の事や乞食の事を考えています。考えていても、何も変わるわけではないのですが・・・とりあえずこの寮舎の公務に専念することにしました。それが時間を無駄にしないということになると思いました。(岩手県・2年)
- 今回の講演をとおして10人集まれば10個の考え方ができるように臨済宗から始まり様々な体験をされてきた先生のお話は、普段聞いているお師さんなどの話とはまた違った観点からの話で大変おもしろく聞かせて頂きました。そういう話を聞くにあたりまれ、多くの方の質問がいつも以上に寄せられたのもまた興味をそそられました。それが意見の対立であれ、このような討論がなされる内講は私はまだ永平寺に来て初めてでした。先生の間違った法戦ではなくこういうことが法戦でありおもしろいとおっしゃってました。(静岡県・3年)
- みるみるうちに先生の話にひきこまれていってしまい、あつという間の時間でした。(宮城県・2.5年)
- 非常に雲水として為になる、講演であったと思う。ただ、SZIと云うことでは、先生のプロフィール以外でインテンショナルと云う点では物足りない様に思った。(長野県・2年)
- 町田先生には大変お忙しい中、講演会に来ていただいたと思いますが、とても丁寧なお話をして頂いて本当にありがたく聞かせて頂きました。私はお寺の二男に生まれ、二十三才から十年間、一般企業で働いて、その立場から僧侶や寺院のことを見る時間があった、一時は断念した僧侶の道を、もう一度進むことにしました。それは檀信徒の方々のお寺に僧侶に求められること、僧侶が考えていることが非常にズレていてお寺の将来に不安を感じたからです。先生がおっしゃっていた、これからの僧侶に求められるコミュニケーション学だったり、カウンセリング学だったりということは私も絶対に必要だと思います。今日はたくさん質問にも丁寧にお答え下さり本当にありがたうございました。(青森県・2.5年)
- 国際仏教の講義としては、あまり外国文化との比較宗教的な論議ではなかった気がします。むしろ修行僧としての在り方についてという感じが見受けられました。
- 私は今回の講演会について最初何もわかりませんでした。先生のことでもSZIのことでも正直まったく知りませんでした。今回この講演を聞いて、SZIの運動についても少しですが知ることができ、また、修行についても様々に興味深い話を聞くことができ、とても有意義な時間でした。(新潟県・1.5年)
- 直球な意見をまっすぐに言われたので、聞いていて何について話しているかわかりとてもわかりやすかったです。色々な事を考えながら永平寺での生活をおくるのでなく、その時やるべき事だけを考える生活すべきだと思います。
- 仏教はカタチがないものではないと思います。一人一人の思いこみや、願いが結果しました。それもあり長い間語りつがれてきたので少しずつ多くの人になじみやすくなっています。私も講師さんの言っていたような方、身分や財力の関係ない仏の世界での物の見方、すばらしいですね。
- 講師の方の色々な話が聞けて良かったです。時間を無駄にしてあとで後悔しないように1日1日がんばろうと思いました。
- さまざまな話を聞かせていただき、とても良かったと思います。「雲水という時間は二度と帰ってこない」「人の為でなく、自分の為に修行する」このコメントが印象に残っています。自分の安居のあり方を今一度考えてみようと思いました。(山梨県・2年)
- SOTO禅インテンショナルということでは、国際的な講演を聞くのとおもっていましたが、全く違い、禅ばかりでは無く様々な話、考え方が聞けて良かった。(静岡県・1年)
- あまり堅い話ではなく、先生の経験談の話もあり聞きやすかった。・時の時間の大切さがよくわかった。一照に一度しかない永平寺での修行、後悔しないように修行しようと思います。(佐賀県・1.5年)
- 我々永平寺の雲水は公務等におわれ多忙であるが、そうであるがゆえに少しのひまを無駄に過ごしたり公務がおろそかになったりしがちであると感じた。公務をする時はしっかり公務をする。坐禅の時はひたすら坐る、休むときはきっちり休む、この修行生活の一時一時を大切に過ごしていかなければならないと思う。(1年)
- 「お坊さんって楽しい」本当にお坊さんでよかったと思えた講演会でした。「陰徳」潜在蓄用は尊いですね。(山形県・2年)
- なかなかよいと思いました。また機会があれば随喜したいと思います。
- とても勉強になりました。(1年)
- 以前、雲水をされていた方の雲水へのメッセージの様な形で、修行生活を考え直すいい機会になりました。海外布教などの話ではありませんでした。楽しそうに話す講師の方を見て、布教の仕方と人に何かを訴える時の姿勢を学び、有意義な時間を持つことができました。(神奈川県・3年)
- 素直な心で人々が生活できたらどんなに素晴らしいことかと思いました。私達は永平寺という環境にすることで、坐禅をしたり周りの風景や音に落ち着かれています。慣れない頃はやはり落ち着かなかったのですが、日々過ごしているうちに何が大切なのか少しですが分かるようになってきました。それは先を見通さず、目の前の事に目を向けることです。そのことよって今日にしていることに対して向かっていける心ができました。山から降りて社会と密接になっていきますが、何が大切なのかあせらずゆっくりと接し、その時その時で変わる心の変化、動きなどに揺れない強い心を持てたいと思います。(岐阜県・1年)
- 「己事究明」・「純粋に己」の修行を通して。永平寺に来て1年半、自分では気付かない内に、色々なものに縛られ、見失っていたのかもしれませんが。僧侶とか一般人だとか関係無く、今自分が生きている世界、日常の中で「真実の己」を見つめていくことの大切さ、大変さ、思い出しました。(静岡県・1.5年)
- 僧堂に安居しての修行とはどうあるべきか。また、それを誰のために行くべきか。また、何のために修行しているのかという問題について、普段話を聞くことが少なかったで、とても興味深く聞かせて頂くことができました。今日の講演会で感じた問題意識を常に持ちながらこれからの安居を過ごしていきたいです。(岐阜県・1年)
- 煩惱とはどんな修行をしても消すことはできない。そんな自分を情けないと感じる自分になることが大切という言葉が印象に残りました。在家の方は修行生活は煩惱を捨てて自分と思っているし、僧侶について誤解されている点も多いため、師寮寺に帰ってから寺と檀家の溝を埋める活動をしたかったです。(北海道・4ヶ月)
- 時間は二度と戻らない、一瞬一瞬を大事にその場のものに力を傾ける。私が永平寺に来て、これまでの生活と変わったもの、そのものをおっしゃっていたのが頭に残っています。
- 私はとにかくお寺や宗教についての知識がないため、永平寺で勉強にも力を入れたいと思っておりますが、僧堂安居中は行に専念しろとの言葉を受け止め、勉より行を優先して欲しいと思います。しかし配役上、その行もままならぬ事が悩みであります。(愛知県・1年)
- とてもおもしろいお話を聞かせていただきました。内容については納得できる場所と納得できない所もありましたが、それは先生の考えと私の考えが違っているからだと思います。話の中でよく修行は何かとしてきましたか、最後まで修行とは一体何なんだろと考えさせ

られました。安居歴の問題ではないと言っても一年では経験できないことも多くあります、長い間居れば多くの事(役)などで、また違った角度から修行ができるかもしれない。最後はその人次第なんだと思います。日々の行いをどれだけ大切に、なまけたりしないか。難しいですが自分がどれだけやれるかだと思います。

- 長い年数安居して派手な袈裟をつけた人が立派なわけではない。むしろ大学院・文化財を保有する寺院の住職が傲慢な人が多いといった意見には少し納得しました。長い安居の人が横柄になるのはやっぱり間違ってますな。
- まずもって、こちらの団体の名前すら知らなかった所からお話を聞かせて頂きましたが、大変になりました。題目と内容、初めて接する者にと付きやすく、よく理解できました。(待つ間、講師プロフィールを読んでいる時は不安でしたが、)言葉も分かりやすく「人の為ではなく自分の為に修行して下さい。それがだんだんと広がり、自も他もなくなっていく。」や「永平寺で修行したというのは隠して下さい。」「人の為に?。」とか自我が人を救う、とまっすぐに自我をもって接すると、それは妄想になる。」といった助言が印象に残っています。(静岡県・3ヶ月)
- 基本的な内容で聞き易い講演でした。特に自利と利他の関係について興味を持ちました。(静岡県・4ヶ月)
- とても勉強になりました。今の自分をもう一度よく考えなければならぬと思いました。ありがとうございます。(愛知県・1年)
- 自己とまっ向き合い、そして今ここでこの瞬間しかできない修行をひたすらにやり抜く。その実践の場に居ながら、それを実践してない自分を再認識させられました。自分に真剣になれる者は他者にも真剣になれる。そうならないように自分と自分の修行を見つめながら残りの安居生活を送りたいと思います。(宮城県・1年3ヶ月)

講演会への希望

- 国際布教活動について。(愛知県・1年)
- 生きることに力を分けて(助けて)あげられるような内容。(兵庫県・1年)
- 私は、SZIの講演会はその報告会であって欲しいと思います。(長崎県・4年)
- 同じような話をまた期待します。(静岡県・1年)
- 自分自身から外へ目を向ける余裕がないので、色々な話を聞く機会をいただけるだけで有難いです。(神奈川県・6年)
- 海外での曹洞宗の立場、パネルディスカッションなど。(長崎県・1年)
- 実際に海外で布教をしている方のお話が聞きたいです。(埼玉県・4ヶ月)
- 外国での活動内容を知りたいです。外国で曹洞宗の修行の作法等、どこに布教しているか等、興味があります。
- 個人的に、仏教はアメリカではどのようにとらえられているのか、現場で動いている人に話してもらいたいです。(秋田県)
- 海外布教の報告をもっと知りたいです。
- 国際交流という点からいけば、同じ佛教でさえ東南アジア・中国・日本では大きな差異がある。そういった差異の理解なしには交流の糸口も見えてこないと思うので、基礎的でよから学問上正確な知識を一通り示し、その上で交流の実例を講義してくれば良いと思う。(秋田県・3年)
- 今日の町田先生様の様なお話が良いと思います。特に、自分の中で勝手に納得したり答を出してしまったり、知らないふりをしていたり、本当に知らない安居者の為にも。(京都府・1年)
- 実際の活動とその成果。
- 海外の禅寺で修行するにはどうすれば良いか?また、海外の禅寺で修行されている方の話を聞きたい。(2年)
- 様々な経歴の方や様々な職業についている方のお話を聞くことは自分のその先の道をきめるうえで、とてもよい参考となるので仏教とはかけ離れた方のお話も聞いてみたい。
- もう少し国際活動に絡めた話が聞きたいです。(神奈川県・1年)
- 国際交流や海外布教の様子を知りたいです。(宮城県・1年)
- 海外で(日本人でも、そうでなくても)禅を長年行自邸ル人の話を聞いてみたい。言語が異なればよりいっそう興味深い。
- 海外の陽の和尚さんのお話を聞いてみたいです。(静岡県・1年)
- 情報社会における僧侶の立場。これからのお坊さんに必要なものは何か。
- 普通の人が経験した事無い様な話を聞きたい。ショックを受けたい。
- 海外の(時にアメリカの禅センター)の実状などを教えて欲しい。(山形県)
- これまでの禅に対する考え方に正面から対立するような、そこに新たな光がある方の講演を聞いてみたいです。(鹿児島県・4年)
- 海外の人にどのように禅を説明し、実践させるのか、その方法について聞いてみたい。(福井県・5ヶ月)
- 昔のお坊さんは、お医者さんの立場もあった、またカウンセリングの立場もあった。現代は逆に坊さんは死ぬ時にお世話になる所というイメージが強いと思う。だからカウンセラーや医者の先生のお話を聞いてみたい。私達にできて、彼らにできないことは何か。きっと何かあるはずだと考えます。現代の坊さんただお経を唱えているだけじゃだめで、できるだけ広く周りに目を向けて見る必要でしょう。現代人は坊さんに何を求めているのか、いろいろな職業に就かれている人のお話を聞くことによって、私達はそこから自分なりにできることを見つけていけたらと思います。(愛知県・5年)
- 「無意識」について講演して欲しいと思います。(新潟県・1年)
- 国際布教についてもう少し詳しく教えて頂きたいです。(山梨県・1年)
- 坐禅と瞑想の違い。海外の人の坐禅の捉え方について。
- 特にはない。(千葉県・3年)
- 人の死、死とは何か。人の死というのは、活動が止まったら死なのか、人から忘れられた死なのか。(青森県・3年)
- 山の外の僧侶達は、安居を終えて帰ってくる者にどんなことを期待しているのか。山に居る間にどんなことを学んでほしいと思っているのか。・そんなことを知りたい。(長野県・3年)
- カウンセリングなどの講演を聞いてみたいと思います。
- 国によって、また宗教によって修行の仕方はまったく違うと思います。海外では、また他宗教でどの様なことをしているのかを教えてください。私達にできて、彼らにできないこと、どういった内容を、と具体的に思い浮かばないが、工夫が必要だと思う。(新潟県・1.5年)
- 日本のイメージ(外国から見た日本の雲水)等の他の宗教の信者との生活の違い、考えの違い。
- 外国ではどのような法要が行われたりするのか。日本との違いを聞いてみたいです。
- 国際布教、交流についての講演をしてほしいです。(山梨県・2年)
- 国際的な講演を期待します。(静岡県・1年)
- 布教するにあたっての寺院の在り方。人材育成教育について。(静岡県・1年)
- SZIの国際布教活動の具体的な内容について。(1年)
- 内容は特に希望はありませんが、いろんな人のいろんな話を聞きたいです。(山形県・2年)
- 体験に基づいた人生経験を語る。海外に行っている活動や日本国内で行われている宗教活動。(岐阜県・1年)
- 国際布教支援・国際交流を通して見た様々な国の宗教観について。(静岡県・1.5年)
- 国際布教の現状について。どのように布教がおこなわれているのか。(岐阜県・1年)
- 布教活動の方法論。(北海道・4ヶ月)
- 著名な講師を呼んでほしい。
- 世界の宗教の現状をテーマにした講演内容を期待致します。なただ元元禅師の教えを広める活動の原点となる事を応援しております。(愛知県・1年)
- 色々な人の修行とはどのようなものだと考えているのか聞きたい。世界の人と日本の、修行への取り組みの差。
- 海外で日本の仏教がどんなとらえられ方をしているかどうかお聞きしたい。
- 具体的な活動風景を、できれば映像で拝見したいです。(静岡県・3ヶ月)
- 海外での禅布教の状況について。禅を布教する意義について。(静岡県・4ヶ月)
- 国際交流。(愛知県・1年)
- もう少し少人数の対話形式でお話を聞きたいです。(宮城県・1年3ヶ月)

- いす。(秋田県・2年)
- 堂々と「私は悟りを開きました」って人の話を聞いてみたい。感銘を受ける為ではなく疑問を抱く為に。(愛知県)
- 他宗派の人の話。(愛知県・2年)
- 「僧侶として何が一番大切な」など、これから僧侶として生きていくのだから「今の自分」や「これから」を見直せるような内容のお話が聞きたい。(北海道・2年)
- 具体的な国際布教活動や、その体験談が聞きたいです。特に元から(日本にいる時から)英語が出来て活動している方の話よりも、英語(外国語)があまり話せない状況で海外へ行き活動されたような方の(御山の海外研修の様な)話を聞きたい。元々しゃべれた方の話では、我々としては身近でない為。(岐阜県・2年)
- 国際化が進み、仏教も世界へ布教場を広げていますが、私達が興味のもてるような環境があればと思います。(宮城県・2年)
- 国際交流などに、新到も参加できると良いのですが。(3ヶ月)
- 各国の僧堂の説明や、現地の人を招いての講演。
- 世界で布教している曹洞宗の僧侶の姿をスライドやビデオで見たいです。
- 話だけではなく実際に活動しているところをビデオなどで見たい。
- 他宗教(キリスト教、イスラム教)等との対談形式の講演会。(岐阜県・1年)
- 禅にとらわれず、自分の生き方を工夫している方のお話を聞きたいです。(愛知県)
- 海外での布教、国際的な内容の講演会を聞きたいです。
- 具体的な活動内容や外部(布教された人や周りの人の意見アンケートなど)の人の意見等を発表して頂きたいです。私の知人はスリランカで活動してまして、現地の寺院さんと青年僧の生の声をいろいろ聞いたので、そういう風な事をいろいろ国の人から聞かしてもらいたいです。(愛知県・1年)
- 仏の教えをわからない人に「わかりやすく」伝える方法など。
- 半僧半俗の人以外の人でお願いします。
- ただひたすら坐禅がしたいです。
- 一本化した話を聞きたいです。
- 布教活動を具体的にどのように行っているかを、経験者のお話を聴きたいです。
- 国際布教活動についての講演会を期待します。具体的にどのような国で行っているのか興味があります。(北海道・1年)
- 国際布教支援の具体的な活動を教えてください。(千葉県・4ヶ月)
- 自分の勉強不足で少し分らない点がありました。最後の質問をする時間をもう少しとってほしいと思いました。(山口県・0.3年)
- 国際交流などの活動(福井県・1.5年)
- 私は、今回の講義内容がとても興味深かったので、今回の講義の延長上にあるお話を聞きたいです。(北海道・0.5年)
- 僧侶=葬式が今の一般の人のイメージだと思います。つまり坊さんは死のプロにならないといけない気がします。その中でも残された家族や親しい人の気持ちを安らがせてあげられる様な法話などの講演を聞きたいです。(愛知県・1年)
- 一般の人達と宗教家が集って専門的知識や言葉を使わずに"目指すべき人物"について語り合う。(北海道・4ヶ月)
- ユダヤ教やイスラム教、キリスト教の道を通して真剣に励まれている修行者の声を聞いてみたいです。(岐阜県・0.5年)
- 深い経験を土台として知識を語ってくれる方の講演。(岐阜県・7年)
- また町田先生に来て頂きたい。今日のような講義にもしてもらいたいです。(北海道・4ヶ月)
- 真理をどどんと語ってほしいです。それを真剣に言える人を世に出してほしいです。まじりけのない純粋な話という法を、今の現代にあてはめて展開して欲しいです。(北海道・3年)
- 「人材育成」について、SZIがどのような人材を必要としているのを知りたいです。(3年)
- SZIの活動の報告や、その活動への参加の方法などを含めた講義があればと思います。(3年)
- 今回の講演では国際関連のSZI的な話が少なかったため、次回などはSZIに関連した話、また西洋やアメリカの話はよくききますが東南アジア等といった所での活動内容の話を聞いてみたいです。(静岡県・3年)
- 海外の禅研究等について。(長野県・2年)
- 色々な国の僧堂で安居している人と直接お話をしてみたいです。(青森県・2.5年)
- どんな修行をしているのかではなく、外国に布教されている仏教がその人に何を与えるのか、その上でその人達はどのような考え方をもって日々を行っているのかという事を知りたい。
- 上にも書いたように、昨日の回答のようなものは聞く側もとても楽しく、話に入り込んでいくと思う。だが、「インターナショナル」というものもとても難しいことで、どういった内容を、と具体的に思い浮かばないが、工夫が必要だと思う。(新潟県・1.5年)
- 日本のイメージ(外国から見た日本の雲水)等の他の宗教の信者との生活の違い、考えの違い。
- 外国ではどのような法要が行われたりするのか。日本との違いを聞いてみたいです。
- 国際布教、交流についての講演をしてほしいです。(山梨県・2年)
- 国際的な講演を期待します。(静岡県・1年)
- 布教するにあたっての寺院の在り方。人材育成教育について。(静岡県・1年)
- SZIの国際布教活動の具体的な内容について。(1年)
- 内容は特に希望はありませんが、いろんな人のいろんな話を聞きたいです。(山形県・2年)
- 体験に基づいた人生経験を語る。海外に行っている活動や日本国内で行われている宗教活動。(岐阜県・1年)
- 国際布教支援・国際交流を通して見た様々な国の宗教観について。(静岡県・1.5年)
- 国際布教の現状について。どのように布教がおこなわれているのか。(岐阜県・1年)
- 布教活動の方法論。(北海道・4ヶ月)
- 著名な講師を呼んでほしい。
- 世界の宗教の現状をテーマにした講演内容を期待致します。なただ元元禅師の教えを広める活動の原点となる事を応援しております。(愛知県・1年)
- 色々な人の修行とはどのようなものだと考えているのか聞きたい。世界の人と日本の、修行への取り組みの差。
- 海外で日本の仏教がどんなとらえられ方をしているかどうかお聞きしたい。
- 具体的な活動風景を、できれば映像で拝見したいです。(静岡県・3ヶ月)
- 海外での禅布教の状況について。禅を布教する意義について。(静岡県・4ヶ月)
- 国際交流。(愛知県・1年)
- もう少し少人数の対話形式でお話を聞きたいです。(宮城県・1年3ヶ月)

講師の先生へ一言

- 今度また来ていただく事があれば、今度は、僧としてこれからの時代にどのように対応していくか先生の考えをもっと聞かせて欲しいです。(愛知県・1年)
- 宗教家として生きていく人はコミュニティの中心であるべきと言われ、何も通じてないといけなきと言われていたが、坊さんは完璧でないといけなくのでしょうか。今は専門分野の人が生き抜ける時代だと思う。だからこそ我々はもっと自分の宗教を勉強すべきだと思います。(兵庫県・1年)
- 大学の先生、先生といった感じが色々なところに伺えたのが少し残念だった。
- 先生は絡子もせず、法衣も着ず、剃髪もされていなかった事を、まず疑問に感じました。一度は出家されており、本山での講演ですので、当然の事だと思いましたが、先生の姿を見てみると、先生のような人がいるから、今疑問に感じる事ができるので、悪くはないと思いました。これから私は本をたくさん読みたい。先生の話を聞いてそう感じました。自分が無知すぎるからです。普段から、私は人の話を理解することが下手で、正直今日の講義も???だらけでした。でも、仏教書を読むよりは、はるかに分かりやすく、興味深かったです。いくら「只管打坐」としても、人とコミュニケーションはとも大切です。先生は、人に疑問を持たせる事ができ、私自身おとなしい方ですが少し熱くなりました。また、永平寺へ来てください。(長崎県・4年)
- 実体験に基づく仏法の提唱というのが最後の方でちょろっと出てきました。当本山の西堂老師はまさにそんな提唱です。(静岡県・1年)
- 講師の御言葉の中に「修行中(雲水)に読書は必要ない」という言葉がありました。現実の永平寺においては、読書は必要だと思う。臨済の道場のように修行道場と本山の境内が分かれているのならともかく、永平寺では参拝者、参籠者の対応、受処の受け付けをするのも雲水なので、それなりの知識と勉強が必要だと強く感じています。(神奈川県・6年)
- 曹洞宗は道元禪師、瑩山禪師の両祖様をおいて。小さな田舎のお寺で光を放ったのが道元であれば、その光を万人に照らしたのが瑩山である。一人一人修行のスタイルが一緒であってもどどり着く所は違いう、見つけるものも違おうだろう。ただそれを糧にたよりになる在家の人を救済してあげべきなのだ。確かに在家の人でものすこい物知りて仏教をしっかりと勉強なさっている方々もいらっしゃるでしょう。でも勉強するだけでは不足なのです。一切は空を坐禅で体得することか私達曹洞宗の僧侶が日々修行に励む根本なのだから。勉強不足だとしても、実践でつかんだものは伝えることが出来るでしょう。(長崎県・1年)
- 先生のお話は大変おもしろかったです。先生の体験されてきた様々な事や考え方は、今の私にとってもプラスになりました。もしまた機会がありましたら、もう一度先生のお話を聞けたらと思っています。そして、その時には私の質問に答えていただけたらと思います。(埼玉県・4ヶ月)
- 宗教者・聖職者は傲慢だと言っていました。先生もそのように思いました。講演の初めの方は自慢話かなり多かったように思いました。しかし、普段聞いている講演みたいに眠くならなかったのは、先生の話が面白かったからです。これからも楽しいための講演を続けてください。
- 非常に考えさせられるご講演ありがとうございました。先生の「いるだけで何か感じてもらえる人になりたい」という言葉に、ただひたすらうなずいておりました。もっと多くの話を伺いたかったのですが、時間もなくて残念です。私は人と一対一で、一生懸命に話をすることが好きなので、凡人の私ですが、いつかお話をする機会を得られれば幸いと思っています。この度は本当にありがとうございました。(秋田県)
- 先生にとって、仏教がどのような救いがあり、安らぎをもたらすものなのか、具体的に聞きたかったのです。
- 「私の友人である有名な自動車修理工が口にする言葉はどこかの御本山様かと思うほど深い」とおっしゃっていたが、具体的に氏は彼のどういった言葉に感銘を受けたのだろうか？この一例に留まらず、市井の人々の深い言葉の例を挙げて欲しい。また「たとえ日本を大地震が襲っても、貴方の坐禅に影響があらはならない」との御言葉があったが、災害で逃げ惑う人々を目の当たりにしても安居中は関わってはならないのか？それは「一般人に対して傲慢だ」という氏の宗教家への批判が由来した様に感じます。この軸の元が大きくなる様になれば嬉しいですが。今日は、始まりの日の様に感じます。永平寺で二年目になり、侍真察も終わりと、どこかで勘違っていました。「勘違いはいけない」と言われても、まだ「自分は勘違していない」と思っています。どこかその様になっていました。先生のお言葉は、私のお腹の中をグルグルかき回して、それでもかき回しっぱなしではなく、進むべきセントを下しました。迷いが消えてしまった様です。今はさすがにいい気分です。新しく生まれた様に。ありがとうございました。(京都府・1年)
- 坐禅は大切な行の一つです。しかし、永平寺の中には公務等で疲れ果ててしまって、眠ってしまう者もいます。例えば、庫院の人達(朝が早く睡眠時間がない)、法堂、承慶殿の人達(法式の練習で疲れ果ててしまう)。それでも坐禅をしていけば何かつかむ事は出来るのでしょうか？人間ですから調子の悪い時も多いと思います。眠気をこらえるのは相当にきつい事です。眠気をこらえる事に意識が偏りすぎて、本来の禅の姿とは違ってような気がします。難しいですね。(2年)
- 臨済宗に興味がある私にとって先生の話はとても興味深い者でした。「自分の為だけに行ず」という言葉を大切に安居生活を送りたいと思います。(神奈川県・1年)
- とても身近に感じられる話でした。ありがとうございました。(宮城県・1年)
- プロフィールでの修行を20年して、その後いろんな場所で勉強してすごかった。(静岡県・1年)
- 先生は「雲水としての時間は今はない、だから無駄にしてはいけない」ということに安居中気付かなかったので「自分と同じ失敗はしないでほしい」と思っていて、それを伝えて今日は来ました」とおっしゃっていましたが、自分の過去を後悔しているということですか？もし安居中それくらい気付いていけば今は違った人生を送っていると思いますが、それでももっと早くそれに気付いたかと思えますか？私も過去に行いや、もっと早く気付いたかたことなどで後悔してしまふことがあります。しかし、もしも過去に戻ってそこで違った行いを選択したら、未来も変わり、その後には会はずだった人にも会えず、経験するはずだったことも経験できなくなってしまう。それは嫌です。なぜなら、その後悔している事より以降の人生には何も後悔していないからです。伝わりにくいかもしれませんが、すべてが因縁であり、先生が安居中に気付かなかったのも、そして後に気づき、永平寺で講演して私に色々気付かせてくれた私にはプラスになりました。だから後悔はいらないと思います。
- あるがままに生きている生き方はとても良い事だと思います。最後は仏道に戻れると思うので仏道を歩んで行かれる事を望みます。
- 檀信様の皆様のおかげで修行させていただいているという認識をしっかりとって、修行には

げみたいと思う。(山形県)

- 質問の続きです。全身を心にする事、そしてその己が相手と向き合う事がまさしく"心"であり、「己」なのでしょうか。(鹿児島県・4年)
- 今は分かりませんが、後々にこの安居生活を振り返って見た時にどう感じるんでしょうか。今は本当に辛いですが、時間をもっと有効に使うよう言われましたが、余裕が全くありません。(福井県・5ヶ月)
- 非僧非俗の暮らしをされている町田先生ですが、宗教者でもなければ宗教家でもない、そんな立場が、今の私にはうらやましいです。私の質問「私達が今後修行を終えてやるべき事と、先生がなさっている事に違いはあるのか」という問いに「違いはない。それぞれの立場で、それぞれができる事を精いっぱいやるのみ」とお答え頂き、嬉しく思いました。学者さんには「行」がます。老後は、また衣を着る、袈裟をつけるとおっしゃっていましたが、先生には今の立場が一番恵まれているのかもしれないよ。坊さんの世界に入ると、逆に身動きがとれなくなるかもしれません。私には私の、先生には先生の与えられた立場で、衆生を教化していただける事を楽しみたいと思います。(愛知県・5年)
- お忙しい先生の話をお聴きしたこと、とても貴重な時間を過ごさせていだいたと思っています。これからも先生のお話が必要な方がたくさんいると思います。是非講演を続けて欲しいです。ありがとうございました。(新潟・1年)
- 国際布教についてもう少し詳しく教えてください。(山梨県・1年)
- 自分も在家出身なので、先生の話はとても参考になりました。今の自分に、将来何ができるかわかりませんが、今自分にできる事を私を私にしたいと思っています。
- でもやはり宗教者ではなく学者ですね。(千葉県・3年)
- 修行は自分の為にする、これはみんなが言っている思っていることと思っています。では、自分の横で坐禅している人が寝ていたら、起こさないと自分の修行に集中すればいいの、起こして注意するのが修行なのか。(青森県・3年)
- 確かに宗教者としての高みに登るのは名誉も金も必要はない。自分の役目を果たすにそんなものは必要ないと思う。問題なのは、宗教団体の上位にいる者たちが、その理論で下位にいる者を搾取しながら反感の声をおこさずこむ事ではないだろうか。そんな人はかりではないことも判るが、そういう者がいるのも事実であろう。もっとも、高みにいる者には、そんなこともどうでもよくなるのだろうか。(長野県・3年)
- 自分のためにも、他人のためにも、今の修行生活をたいせつにしていきたいと、先生の講演を聞いて思いました。
- 誰のために修行しているのか？といわれれば、私は自分だけのために修行しているとはいえません。もちろん自分のためでもあります。両親のためでもあります。ここで3年安居すれば両親がよくなる、それならば私は降りたい気持ちで我慢して安居するのもいいと思っています。そういう考えもあっていいのではないのでしょうか。安居は自分だけのものではないと思っています。
- 極限状態にある人間の心理はもろく、だからこそ、古来宗教家が修行する際は他者からの影響を排除した山や寺にこもって聞きます。ですから、先生がラジオやテレビなどの雑音を排除した暮らしをすべきと述べたことは、とても納得できます。だからこそ、雑音のある外の世界にいた時が本当の修行のはじまりという話も理解できます。様々な体験をされ、他の宗教について学ばれ、多角的に仏教を見ることできる立場にいらっしゃると思うので、ぜひ非僧非俗ではなく、僧侶として生きられた方がよいのではないのでしょうか。(北海道・5ヶ月)
- 講演会ありがとうございました。今回の縁には何か意味があるものと思っています。これから出会うであろう多くの方々、又、今まで出会った方々、出会ってなくても私のことを支えてくださる方々、たくさんの縁を感じられるように、そして自分の為に修行をしていきたいと思っています。
- 気持ちが楽になりました。それと同時に僧侶としての責任みたいなものを感じることができました。袈裟をつけているからえらく見てもらえる、お経を唱えたから頭を下げてもらえるのではない、何も言わなくても内からにみ出るなにかによって、人に親しまれる人でありたいなと思いました。今こうして、この永平寺で雲水をさせていただいている時間を大切に、今のこの一瞬一瞬を大切に過ごしていきたいと思っています。
- そのままで下さい。(近畿・3年)
- 明日、講義があるのにわざわざ永平寺にきていただき講演をしていただき、ありがとうございました。この先何年安居するかわかりませんが、一時一時を大切に、行にはげみたいと思います。(秋田県・2年)
- 雲水時代の時間の使い方が誤っていた、無駄にしてしまったと言っていたが、「今も気持ちは雲水のまま」というのは？僧堂を出てからが本当の修行というのわかるが、もし今満ちた生活ができていて、気持ちが雲水のままならば、雲水時代の時間の過ごし方が無駄であったとは感じないのでは？(愛知県)
- とても考えさせられました。難しい話ではなかったのですんなりと耳に入ってきました。先生のお話の中で「苦勞させて頂いた」という言葉がありました。その一言で先生の考え方や姿勢が見えたような気がしました。素晴らしい講義でした。ありがとうございました。(北海道・2年)
- 経歴のおもしろい方だと思った。復讐や宗門の方など純粋な僧侶の方とは違い非僧非俗という視点からのお話はたいへん新鮮であった。もう少しお話を聞き、こちらからも質問できたらと思った。ただ今回は時間内に先生の話をも自分の中で噛み砕き、自分の言葉として質問するだけの時間がなかったのが残念でした。(岐阜県・2年)
- 先生の修行をしていたときの体験で、修行している時というのは今はない、この時間は二度と戻ってこないというところ。今、永平寺で修行していて、そうありたいと思っています。しかし思っているも、そう簡単に自分に勝つて、だからだしてしまっています。戻ってこない時を大切にしていきたいと思っています。(宮城県・2年)
- もう少し深く考えるようになった時、また話を聞きたいです。(3ヶ月)
- 非常に考えさせられる講演の内容でした。自分はこのままでいいのか、これから何をすればいいのかをしっかりと考えていきたいと思っています。ありがとうございました。
- 話がわかりやすくよかったです。時々むづかしい言葉でわかりづらいうところもあった。でも、この講演を聞いて今できる一つ一つを無駄にせずがんばりたいと思った。
- また、話を聞く事ができればうれしいです。
- 自分なりにがんばります。
- 自己存在と生と死について先生の思うところを聞かれました。(岐阜県・1年)
- 時間が止まる事をネガティブにとらえていたが、講演を聞き、雲水として時間がとまる事の意味の大きさを知り、ポジティブにとらえる事ができるようになりました。自分の先の絵を描く、とおっしゃるように時間に対してもう少し優しく接する事が必要に感じました。(愛知県)
- 否定的な内容のことも、言われて初めて気付くこと凶星でムカッとすることはよくあるがそのあとの反省点や注意点として自分の中に留めておける、そういう意見を言ってもらえることは幸せだと私は思っています。現在の僧侶に対して、禅僧に対しての否定的な意見、一般的な不満を聞かされて、やはりこれではいけないと思われしました。最後の質問の時間は

やおおれぎみかと思われるところも見られましたが、また来て欲しいです。

- 私は先生に「下りるときはいつ？」と質問したのですが、先生がおっしゃったいろいろな事がけっこう自分が考えてた事といっしょだったのでとてもうれしかったです。正直、お山にはそういう考えの人はとても少なく自分は変わった考えなのか？と思っていました。でもあまり気にせず、自分のやるべき事をやろうとしてきましたが、人生は一回しかありません。だから楽しく生きていこう自分のやりたい事をやっつけよう（ワガママとか自分勝手ではなく）中道を歩んで行こう。自利行他利行と質問していた人がいましたが、自分の為だろうが人の為だろうが自分がやっていると自分は自分の為ですか？人の為にやっつけてあげて笑顔がみれた、それが見たいから人の事をやっつけてあげたらきょく自分の為ですか？とにかく先生のお話を聞いてよかったです。またどこかでお会いできる事を楽しみにしています。ありがとうございます。（愛知県・1年）
- 先生のプロフィールじゃなくて仏法体験が知りたかったです。
- 修行中は自分の為だけ？修行中は人を見捨てても良いように聞かせる。説明が足りない。何故あんな考えを他人に押しつける言い方をするんですか？あなたの考えは絶対なのか？そんなに正しいのか？非僧非俗なんているハンパな立場でモノを言っていて欲しい。坊さんを変えたいなら、外野で物言っても説得力がない。
- やはり、他の宗教学者の方たちと、あまり意見の内容がかわりありませんでした。仏教の教えの何たるかといった事は、口では説明しない方がいいと思います。失礼な事を言ってしまうとして、申しわけありませんでした。
- 芯がないような気がしました。自分がなりたて姿はわかるのですが、言ってしまうと、そんなの言わなくてもついてくること。器なんてすべてとってしまえば、いくらでも考えの入るものになると思います。
- 今回は貴重な講演を聴かせて頂き有難うございました。自分の経験から私たちにアドバイスをして頂き、これからの安居生活に対しての気持ちの持ち方がはっきりしてきた気が致します。私たちの様な宗教にたずさわっていない人でも、真理をついた発言をされると言っておりますが、その様な方に、いかに宗教、仏教を勧めていくべきなのかをきいてみたかったです。
- 下山したら先生の本を読ませて頂きます。質問の中で誰かが言っておりましたが、仏教や高祖様の教えを本で読み勉強するつもりでしたが、中々難しいものばかりで、手のつけどころがなかったのです。（3年）
- 時間が押ししていたにも関わらず、質問に真剣に答えて頂きとても有難かったです。多様な経験から繰り出される先生の意見は、これから生活していく上で心に残る大きな得となりました。
- お話もわかり易く、とても親切に質問に応じていただいたのでよかったですと思います。（北海道・1年）
- 「例え俗世間で大地震や戦争などが起きたとしても気にせず自分の為の行をすべきである」と町田先生はおっしゃっていましたが、私の聞いた話では国内で大地震が起きた際、永平寺の雲水が救援活動を行ったらしいのですが、永平寺の方針が間違っているということになるのでしょうか？（千葉県・4ヶ月）
- 私は修行は自分のためにするものだけではないと思います。私は師匠や家族のためにという気持ちも否定できませんし、そういった目標を持つことはいいことだと思います。（山口県・0.3年）
- 今の時期、インターネットなど情報がわかる時代、勉強もその上をしなければならぬと思います。人々のなやみを聞いて、すくってあげることが出来るお坊さんになりたいと思います。（福岡県・1.5年）
- 先生のおっしゃった言葉の中で、特に「今の僧は勉強が足りない」というのが印象に残りました。私も博学な僧になれるよう努力したいと思います。（北海道・0.5年）
- 宗派は違っても、同じ禅宗の寺に安居されていたことがあったということ、話の内容に親しみが持てたし、説得力があって非常に良かったと思います。また機会があれば、もっといろいろなお話を聞いてみたいと思います。
- 自分の為に修行しろと言われておりましたが、やはり自分には理解できませんでした。人の為という周りの人を幸せにしたいです。坐禅を朝からして色々将来や周りの幸せにしたい人の事を想ってしまいます。坐禅や行をさせていただけのには多くの人の支えがあってなのに自分の為に使うのですか？町田先生の深い考えにとらつてないからなんだろうけど、人を幸せにしたい、育ててくれた親の為に立派なお坊さんになりたいと考えます。それが修行の核なる物となっています。（愛知県・1年）
- 簡単な話し方を下さったので、有難うございました。考えさせられる楽しい時間でした。（北海道・4ヶ月）
- 人に何かを伝えるという事は本当に難しいと思います。情熱なくしては何も始まらないという事を改めて感じさせて頂きました。ありがとうございます。（岐阜県・0.5年）
- 曹洞宗だけでなく仏教全体の未来を真剣に考えておられ、今の宗門に足りないものを本音で語っておられ、しかし偉そうではなく、非常に素晴らしい方だと思います。また機会があれば、是非講義を聞きたいです。（3年）
- 海外での出来事等を話されず、修行僧は宗教者はこう有るべきと訴えられた。長い経験でそう感じられ、伝えたいとされた強い想いをしっかり受け止めたい。（岐阜県・7年）
- 最後の方に話された、経験したうえで知識には輝きがある、まさにその通りだと思います。しかし、その知識を得るには並大抵の事ではないと思います。いえ、そう肌で感じます。私も輝く知識を得るべく精進しようと思います。ありがとうございます。（北海道・4ヶ月）
- 多忙なスケジュールの中、真剣に我々に話を下さったことには大変嬉しく感じます。かつこつせず、腹をわって若い雲水に声を大にして話して下さいたことにありがたさを感じます。多くの宗教に触れ、違いがわかり、僧侶ということだけではなしに、様々な宗教を実感したり、知れることにはうらやましさもありました。これからの活動、がんばってまいります。（北海道・3年）
- 御多忙の所、私たちの為に講義頂き有難う御座いました。先生の過去の修行経験の話等、私たちに身近に感じられました。自己反省の機会を頂けた気がします。仏教以外の一般在家の方にも、通じる話だと思います。色々な所で、先生の思いを伝えて頂きたいと思えます。（3年目）
- 先生は変わった、人とは違う経歴の持ち主とおもしろいと思いました。今回の題目とは関係のない話になってしまうと思いますが、先生は、キリスト教系他宗教にも詳しいようですので、そういう話を聞きたいと思いました。（岩手県・2年）
- 今のお坊さんは勉強ができていないとおっしゃいますが知識、智江をつければ話題も増え檀家との会話もはずんでいき寺務も円滑になっていくと思います。そういうことも布教という面を考えれば必要なこととおっしゃるとおりだと思います。しかし教家におさまらず仏道をもとめるのならば社会情勢がどうだとかそういうものに左右されないとらわれない心を持つものだろう。それは知識の知恵ではなく、仏の知恵をそなえていくものであり、お坊さんという職業を離れた生き方である。そういった生き方もありなのでは。（静岡県・3年）
- 本来なら、何も言わずに座っているだけで、何か伝わるのが一番とおっしゃいましたが、今回のお話で先生の人の柄の素晴らしさが伝わってきました。将来に不安におおばっていた在家

の方に対するお答えは本当に感動致しました。本人も大変勇気づけられたと思います。私も修行がおおきかと思える時まで、一瞬一瞬を大切に頑張りたいと思います。（宮城県・2.5年）

- 今の自分において何が大切か思い知らされました。（長野県・2年）
- 今日は本当にありがとうございました。私は家族のことで、家族全員でカウンセリングを受ける機会があり、そういったコミュニケーションのとり方について少しだけですが考えた時期がありました。そのようなこともあり、今日の先生の講演会で伝えられたことが少し分かる部分があったと思います。先生のお話を聞いて、自分の考えが間違っていなかったと少し安心し、また自信ができました。これからも先生の多方面でのご活躍をお祈りしています。（青森県・2.5年）
- 先生の安居に対する探究と行動力は尊敬に値しますが、修行に対する思想と各自の事情は切っても切り離せないものであると思います。大事なのは「誰のため」ではなく自分の現状を良く見つめ直した上で最良の方法を探すことだと思います。
- 先生も言っていました、質問の時間のような形式がとてもおもしろかったです。リアルな声が聞けたし、先生も一生懸命に答えてくれていて、おもしろかったです。（新潟県・1.5年）
- まわりくどくなく直球な意見にもかかわらず、いやな気分にはならなかったのもっといろいろな話もきいてみたかったです。
- 同じ修行者が話をしている様な親近感を感じました。場所や内容は違いますが、禅という一つの世界で共通している言葉や思いを先にけいけんしている。
- 是非、雲水としてだけでなく、一学生として先生の授業を受けてみたいですね。多くのことを得ることができそうです。（山梨県・2年）
- 自分の生き方に大変自信を持っている様で、すごいことだと思います。（静岡県・1年）
- ありがとうございます。（静岡県・1年）
- 仏教は人間にたくましく生きる力をあたえる宗教である？という話が大変面白かったです。（1年）
- 無所得無所悟 この一言の大事を学ばせて頂きました。先生のように後光（オーラ）を持った人物になりたい、そう強く思いました。また、自分の「ごうまん」さにも気が付かされました。先生のお話はどこか温かみがあり楽しいです。合掌（山形県・2年）
- 先生の考え思想はおもしろいと思いました。
- 文章や言葉、妄想にとらわれてはいけないということ勉強になりました。自然の流れの中にあるもの仏法を体得できるきっかけになればいいと思います。（1年）
- 今回はお忙しい中でしたが、講義を聞いてよかったです。特に質問一つ一つに対して、よびみなくクリアな感じでとてもよかったです。まだまだ多くの体験談がありそうでしたが、もう少し詳しく聞きたかったです。時間の関係上仕方がなかったと思いますが、先生の話聞き、今いるこの環境を大事にしたいと思えます。有難うございました。（岐阜県・1年）
- 雲水経験を通して先生の言葉は私達にとっても現実味あふれるものでした。「なんと空しい時間を過ごしてきたことか」という言葉にドキッとしてしまったのは、私が心のどこかでそれを意識していたからでしょう。明日から違った自分と出会えそうです。「今」先生に出会うことができたら良かった。ありがとうございます。（静岡県・1.5年）
- 今まで、全く宗教家としての自覚がなかったで、永平寺ではこれから宗教者としてやっていく上でこの範囲、自分の宗教者としての原点を見つけていって上りてきました。宗教者としての自信、原点をここ永平寺でつかまたいと思います。（岐阜県・1年）
- 柿が20年もの間落ちることなく続けることができたのは何故ですか？初期のモチベーションは維持できたのでしょうか。（北海道・4ヶ月）
- 私は宗教思想の対立が争いを生んでいる事とても悲しさを覚えております。比較宗教学を専門とされているらしいので異宗教との関わり合いについてとても興味があります。また、日本人の宗教意識の低さは、そういった面から考えると争いを生まない宗教思想という事で良い面もあると思います。（愛知県・1年）
- 大変、経験豊富な話で楽しませて頂きました。私は坐禅中、何度も先事を考えてしまいます。考えないようにとは思いますが難しいです。何かやる時にそれだけに集中するという事は行になると思います。すべての事に集中し、何事も一生懸命に取り組み、その姿勢が行になるだろうと思います。良い話を聞かせて頂きありがとうございます。
- 大徳寺で20年も修行していたのに、アメリカへ渡ってゼロから始めるなんてすごいですね。でもやっぱり少し変わった方だと思いました。キリスト教・仏教・神教・イスラム教等の宗教でそれぞれがらしいと思う部分を感じてお話を聞かせていただきました。
- お祈りを頼りに、これからも安居生活を送って参ろうと思います。また、内容もさることながら終始、優しい笑顔で講演下さった姿が印象的でした。私も日々の生活の間でよく考えることがあります。以前から縁あって、地元病院に出入りすることがあるのですが、そこで先生と「亡くなる患者さんやその家族の人にどう接すれば良いか？」といった内容の話をしました。先生は「人はこの世に修行をしに来ていて、一つ成就してまた帰って行くのではないのでしょうか。」という様な話をし、共に考えました。しかし、後になって「当の患者さんや家族の方に、果たして正面から支えてあげることができるだろうか」と自問してしまいました。人の死というのは、階段を上がって最後の一段が無い時の様だと思います。今まで当たり前だった事が、当たり前でなくなる恐怖。それを支えとしたり、相当な説得力を超えた大きな力が必要なのだと思います。今の永平寺というか、婆婆の僧風習を見て、どこか自分に与えられた役目をこなすことが第一という印象を受けます。こういって、禅宗の宗旨にそぐわないのかも知れませんが、どこか甘いといったニュアンスが含まれてしまうかも知れませんが、私はそう思います。ただ、今は基礎が無いので、実際「今」しかないのですが、将来もう少し大きな器になったら、他の人に分けてあげられる分の食べ物も考えて、生きていきたいと思えます。めちゃくちゃな文で恐縮です。ありがとうございます。（静岡県・3ヶ月）
- これからもがんばって下さい。（静岡県・4ヶ月）
- 忙しいと思いますが、お体に気を付けてがんばって下さい。（愛知県・1年）
- 講演会としてとても有意義な時間でした。次はもっともっと対話の形を深めてお話ししてみたいと思います。（宮城県・1年3ヶ月）

※アンケート原文の一部で、不適切と思われる言葉使い等が含まれておりました。記入者の意図を損ねないよう留意しつつ、編集部にて適宜訂正をさせていただきます。

◆祝 就任◆

平成18年10月17日、曹洞宗第101回特別宗議会在開催され、澁内局が発足いたしました。これに伴い、SZI相談役・瀧澤和夫師が教化部長として就任されました。宗務庁教化部国際課とSZIとの連携をさらに深めていくことができるよう、方向性を定めていきたいと存じます。新教化部長のご活躍を祈念いたしております。

◆総会開催速報◆

来年度総会は、曹洞宗檀信徒会館にて平成19年2月14日に開催で準備させていただいております。ご出席の案内は、後日改めてお送りいたします。

日 時 平成19年2月14日

12:00	受付開始
13:00	国際布教物故者法要／総会
14:30-16:00	講演会
16:00-18:00	懇親会

◆海外寺院ガイドブック発刊間近◆

『海外寺院ガイドブック』は、発刊に向けて鋭意編集中です。各国によって通信事情が大きく異なる中で予想以上に手間の掛かる作業となりましたが、全世界規模で布かれている国際布教寺院に協力をお願いし、情報収集を進めて参りました。なんとか皆さまのお手元にお届けできる段階まで参りました。ご期待ください。

会費納入者名簿

7月16日から11月30日まで

◆SZI会費納入者

新規会員並びにご継続ありがとうございます。
(敬称略・順不同)

東京都江戸川区		黒木靖
東京都世田谷区	仏教企画	藤木隆宣
東京都中野区	宗清寺	飯島尚之
千葉県香取郡	長寿院	篠原鋭一
千葉県袖ヶ浦市	真光寺	
埼玉県上尾市	東栄寺	大森篤史
静岡県富士市	伝心寺	井上正憲
静岡県富士市	慶昌院	磯田浩一
静岡県浜北市	高林寺	猪俣正孝
福井県武生市	御誕生寺	板橋興宗
福島県西白河郡表郷村	常在院	長谷川崇信
宮城県桃生郡雄勝町	天雄寺	
仙台市太白区	大満寺	西山廣宣
福島県耶麻郡	安穏寺	黒金義範
横浜市栄区	正翁寺	篁 保雄
東京都葛飾区	萬福寺	垣内善勝
埼玉県志木市	大仙寺	
京都府京都市	松本屋	藪下敏也
福島県郡山市	福島BS観光	

◆出版案内◆

このたび、春風社より『対話が世界を変える 聖エジディオ共同体』（アンドレア・リッカルディ/著 千田和枝/訳）が発刊されました。SOTO禅インターナショナルからも参加しているヨーロッパ「平和の祈り」集会。対話による平和は可能か。現代世界に生きる信仰とは何か。70か国、5万人が参加するNGO活動の最前線について書かれております。購入希望者は、①『対話が世界を変える』購入希望、②希望冊数、③お名前、④ご住所、⑤電話番号、⑥所属（SZI会員）を明記の上、直接春風社 FAX 045-261-3169 まで御注文ください。なお、一冊1890円のところ特価1500円。送料はサービスとなります。

SZIホームページ運営中!

SZIでは、活動報告の他、皆様との交流の場を設けております。お陰様で日本も含めて世界各国の方々にご覧頂いており、好評もいただいております。今後より一層、情報の共有を交流の促進のために、これまでのホームページとBBS(掲示板)に加えて、SZIのブログサイトも設けております。

<http://www.soto-zen.net/>

<http://www.soto-zen.net/blog/>

ご意見・ご質問等、
スタッフ一同お待ち申し上げます。

動 静 報 告

7月1日～10日 聖護寺国際安居通訳派遣 (熊本県菊池市)
8月30日～31日 役員会・合宿 (小田原ヒルトン)
9月1日 ゆめ観音準備 (大船観音)
9月2日 ゆめ観音当日 (大船観音)
9月3日 ゆめ観音後片付け (大船観音)
9月7日～14日 ドイツ普門寺ツアー・諸法要随喜
9月9日 ゆめ観音事後反省会 (横浜市栄区)
10月3日 宗務庁国際課との連絡会議 (檀信徒会館)
10月26日 国際布教支援積立金運営委員会 (檀信徒会館)
11月11日～12日 ハワイマウイ島満徳寺100周年
12月14日 編集会議・国際課との連絡会議 (東京)
インターネットにて随時役員会を開催しています。